

設置工事説明書

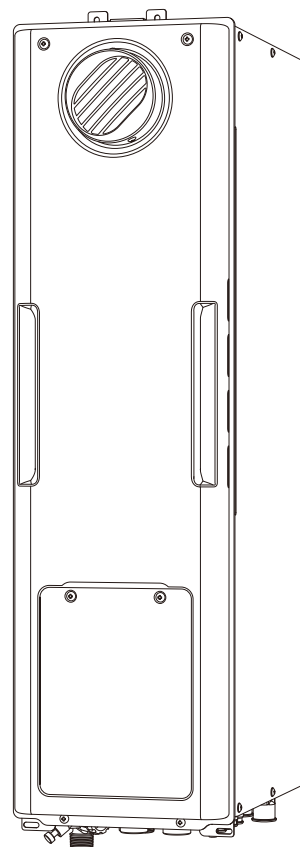


給湯暖房用熱源機

機種	品名	型式名
フルオートタイプ	XT4219LRS AW4C	GH-H241Z (A) WS
オートタイプ	XT4219LRSSW4C	GH-H241Z (A) WS

工事される方へのお願い

- この機器を正しく安全に使用していただくために、この「設置工事説明書」をよくお読みになって指定された正しい工事を行ってください。本書の設置条件を外れた設置が原因で生じた故障などは、保証期間内であっても保証の対象になりませんのでご注意ください。
- 「ガス機器の設置基準及び実務指針」（一般財団法人日本ガス機器検査協会刊）に沿って工事してください。
- エネファーム対応機器の設置に関しては、機器本体および燃料電池発電ユニットの工事説明書も参照してください。
- 工事終了後、付属の保証書に必要事項を記入し、必ずお客様に渡してください。
- 当社の定める施工要領を逸脱しない据付工事に不具合（瑕疵）が生じ、施工者が無償修理や損害賠償を行った場合、ＢＬマーク証紙の貼付（又は刻印等）がされている部品については、一般財団法人ベターリビングのＢＬ保険制度に基づき保険金が支給されます。
- ＢＬ保険制度や当住宅部品の施工要領の詳細については、一般財団法人ベターリビングのホームページ（<http://www.cbl.or.jp/>）をご覧ください。なお、ＢＬ保険制度に関する質問は、一般財団法人ベターリビング（TEL 03-5211-0559）でもお受け致します。



もくじ

ページ

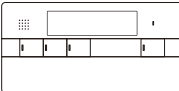
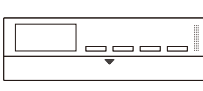
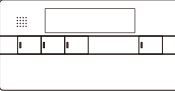
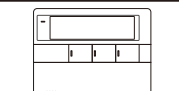
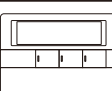
1. 付属部品	2	7. ふろ配管工事	12
2. 別売部品	2	8. 暖房配管工事	14
3. 安全上のご注意	3	9. ガス配管工事	16
4. 機器の設置工事	4	10. 電気配線工事	16
(1) 設置基準	4	11. 暖房信号線接続工事	19
(2) 設置前のご注意	6	12. 設置工事後の確認	21
(3) 設置場所のご注意	6	13. 試運転	22
(4) 設置工事	8	14. 試運転後の水抜き	28
5. 給水・給湯配管工事	10	15. お客様への説明	29
6. ドレン配管工事	11	16. 外形寸法図	29

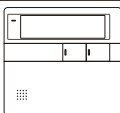
1. 付属部品 梱包内には、取扱説明書・設置工事説明書（本紙）・保証書以外に下記の付属部品が入っていますので、取り付けの前に確認してください。

部 品 名	形 状	個数	部 品 名	形 状	個数
小ねじ M5×16		4	高温端末 接続リード線（2心）	 コネクタ 赤色	2
平ワッシャー （小）		4	低温端末 接続リード線（3心）	 緑色：青、灰、黄、橙 コネクタ 黒色	4
不凍液注入 識別ラベル		1	E-con 接続リード線（2心）	 コネクタ 白色	1

2. 別売部品 別売部品は、機器や設置タイプに応じて、別途お買い求めください。

■別売部品（リモコン）

	標準		シンプル	高機能		エネファーム
浴室	 FC-710EL	 FC-900 FC-901	 FC-800 FC-800S	 FC-712E FC-713E	 FC-910 FC-911	 FC-715-SO
台所	 MC-H710EL MC-H710DEL MC-H710YEL	 MC-H900 MC-H901 MC-H900D MC-H901D MC-H900Y MC-H901Y	 MC-800	 MC-712E MC-713E	 MC-910 MC-911 MC-911-WI MC-910-BN（台所単体）	 MC-H715F-SOEN

増設	
 SC-700L SC-703E SC-717EL	 SC-900 SC-910

増設リモコンの組み合わせ

SC-700L: 標準リモコン（FC-710EL、MC-H710/ 高機能リモコン（FC-712E、MC-712E）
SC-703E: 高機能リモコン（FC-713E、MC-713E）
SC-717EL: エネファームリモコン
SC-900: 標準リモコン（FC-900、FC-901、MC-H900、MC-H901）
SC-910: 高機能リモコン（FC-910、FC-911、MC-910、MC-911）

MC-712E、MC-713E、MC-H715F-SOEN、MC-910、MC-911、MC-911-WI の台所リモコンを床暖房コントローラーとして使用する場合には、設定が必要です。
リモコンに付属の床暖設定工事説明書に従い設定を行ってください。

部品名	品名もしくは部品コード	備考
屋外カバーセット	WP000	壁貫通取り付けを行う場合に使用します
リモコンパイプ	WP008	壁厚が 205mm 以上のとき使用します
リモコン特注ソケット	AJ013	セットで使用します

- ・リモコンケーブルはガス事業者指定品を使用してください。

■別売部品

故障の原因になりますので、指定品以外の物は使用しないでください。

部品名	品名もしくは部品コード	部品名	品名もしくは部品コード
据置台 (550 mm)	SD-5505	排気流速UPアダプター (15°斜方タイプ)	HA-1080V-15
据置台 (550 mm) ロングタイプ	SD-5505L	排気流速UPアダプター (30°斜方タイプ)	HA-1080V-30
自在排気アダプター (上方, 側方兼用)	HT-2504	扉内収納ボックス※ ¹	SB-9800
前方排気偏向アダプター	HM-2502-CS	電力測定ユニット	EM-02
扉内排気アダプター※ ¹	THA-1000	循環アダプター	各種

※¹：パイプシャフト扉内設置時に対応する部品になります。

循環アダプターおよびその他の別売部品については施工現場に合わせてお選びください。

3. 安全上のご注意

■この設置工事説明書の表示について

・この設置工事説明書では、機器を正しくお使いいただき万一の事故を未然に防ぐために、以下のような表示で注意を呼びかけています。

表示について（表示の意味は次のようになっています）



この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。



一般的な禁止



アースを接続せよ



電源プラグを抜け



必ず行う



- ・この機器は、屋外用です。屋内や浴室には絶対に設置しない。
また、波板などによって簡易な囲いもしない。
不完全燃焼や一酸化炭素中毒の原因になり、危険です。



禁止



- ・機器の設置・移動および付帯工事には専門の資格・技術が必要です。
- ・工事は必ずお買い上げの販売店または最寄りのガス事業者に依頼し、有資格者による正しい工事を行う。
- ・工事は、「4. 機器の設置工事」の(1)設置基準にある、法・基準・指針・条例などに従って行う。

4. 機器の設置工事

(1)設置基準



警告

機器を正しく安全にご使用いただくため、この設置工事説明書をよく読み、次の法・基準・指針・条例などに従って設置する。

- ・建築基準法 ・電気設備に関する技術基準 ・ガス事業法 ・液化石油ガス法 ・水道法 ・下水道法
- ・特定ガス消費機器の設置工事の監督に関する法律 ・当該地区の市・町・村火災予防条例
- ・一般財団法人日本ガス機器検査協会発行の「ガス機器の設置基準及び実務指針」

防火上の措置



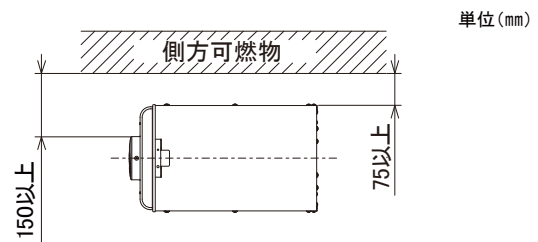
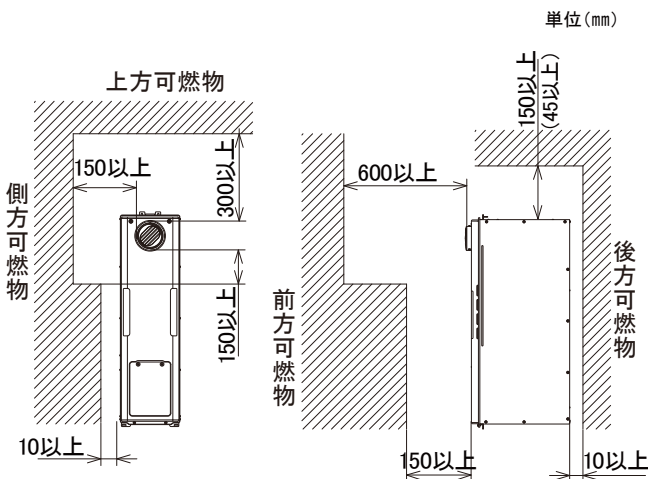
注意

- ・機器の周囲の可燃物（可燃材料・難燃材料または準不燃材料による仕上げをした建物の部分も含む）とは次の離隔距離をとること。この他にも点検、修理のためのスペースも確保すること。
- ※（ ）は下地が不燃材以外の材料で造り、不燃材料で有効に仕上げた場合と防熱板を取り付けた場合の、建築物との距離。また前方の離隔距離は機器の点検、修理のため 600 mm 以上離す。

①機器本体周囲の離隔距離

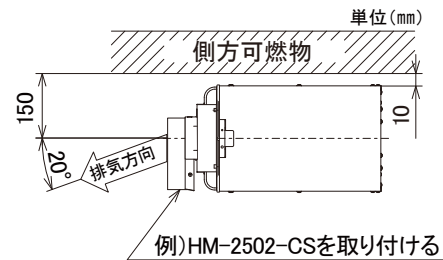
側面設置（左右側面設置可能）

【標準設置図】



【近接設置対応】

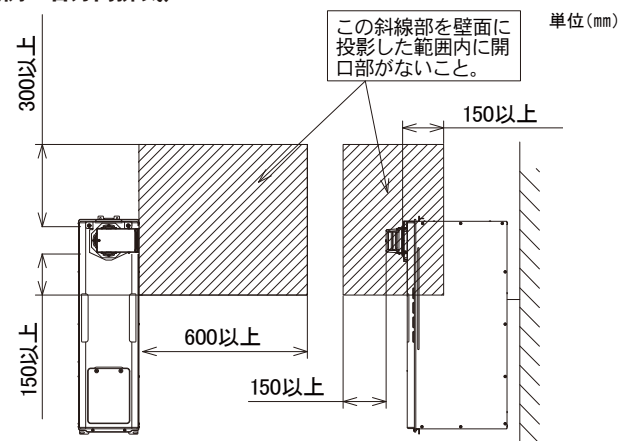
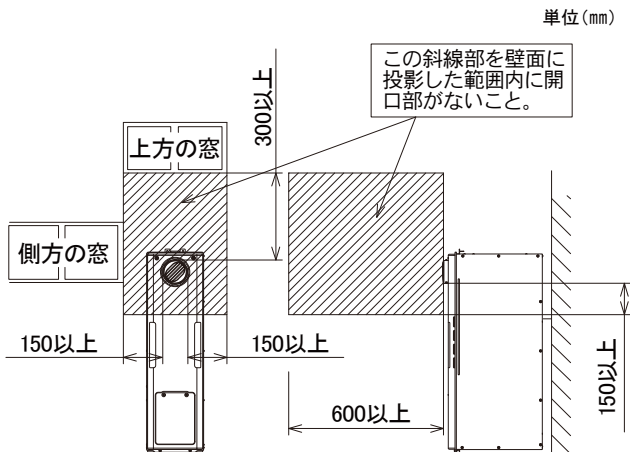
側面で近接設置する場合や、可燃物からの距離が 75 mm 未満の場合には**前方排気偏向アダプター (HM-2502-CS)**等を使用してください。



②排気吹き出し口周囲の離隔距離

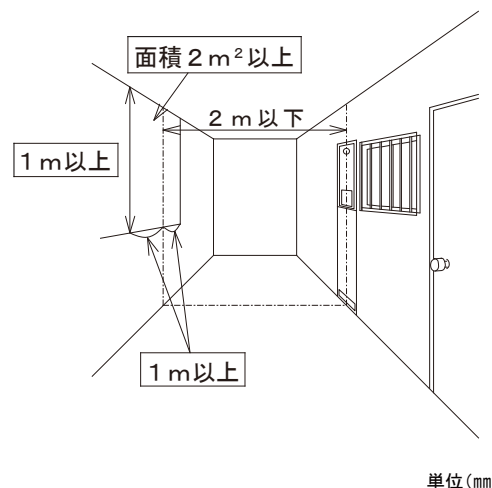
●標準排気の場合

●排気アダプター（別売部品）を取り付けた場合
（例：右方向排気）

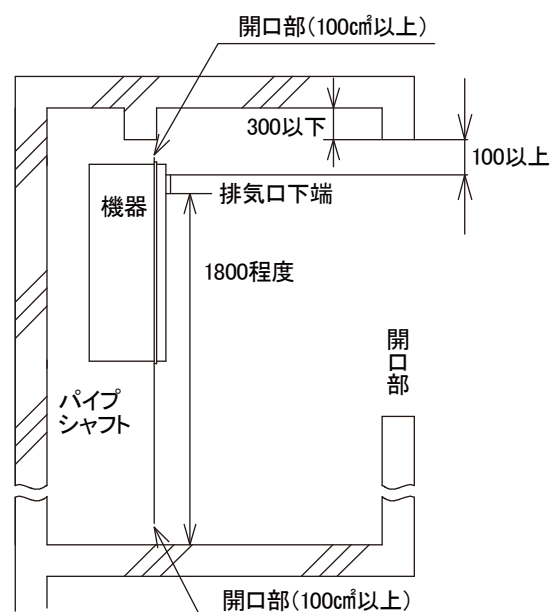


●PS(パイプシャフト)設置の場合

- 開放廊下の開口部が以下の条件を満たす場所に設置する。
詳しくは「ガス機器の設置基準及び実務指針」をご覧ください。
- (1) 開放廊下の開口部は、原則としてガス機器の排気吹き出し方向を中心に両側に1m以上、高さ1m以上、かつ面積 2m^2 以上必要とします。なお、ガス機器の排気口から開放空間までの距離は2m以下とします。
- (2) 上記(1)の条件を満たす設置ができない場合は排気延長とし、燃焼排ガスが開放空間に直接排出されるように設置する。
- (3) 機器取り替え時等に関して、(1)および(2)の条件を満たすことが難しい場合には、結露・腐食等に考慮し、設置者と関係者が十分協議を行った上で設置する。
- パイプシャフトを構成する床・壁は次の構造とすること。
床…各階で耐火構造等の水平区画を行うこと。
壁…居住空間とは耐火構造等の壁で区画を行うこと。
- パイプシャフト内の換気のため、扉の上下に各々 100cm^2 程度の開口部を設けること。また、パイプシャフトへの設置は自治体によって独自の規定をしている場合があるため確認が必要です。
- 排気口の吹き出し口は、排気口下端が床面から 1800mm 程度にすること。
- PS金枠の様式や大きさなどは、各自治体・各消防署・水道局等の規制もありますので、適用される規制に従う。
- 機器本体の気密性を保持するため、電線管は耐火パテ等でコーキングしてください。



単位(mm)



給排気設備

⚠️ 注意

- 給気・排気が十分できる場所（開放スペース）に設置すること。
- 壁などに囲まれた場所への設置は不完全燃焼の原因になります。
- 「3. 安全上のご注意」の⚠️危険および工事の詳細は「4. 機器の設置工事」(4) 設置工事を参照する。

(2) 設置前のご注意



用途外の注意

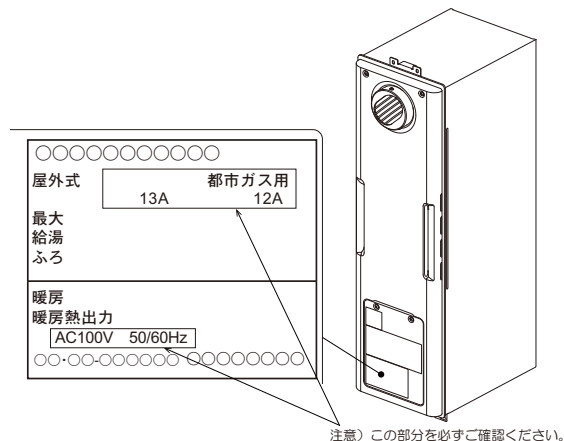
- ・給湯・シャワー、ふろ、暖房(乾燥)以外には使用しない。機器の故障の原因になります。
- ・暖房専用としては設置しない。機器の故障の原因になります。
- ・家庭用機器ですので、業務用など長時間使用すると機器の寿命が極端に短くなります。
- ・車両・船舶への設置はしない。機器の故障の原因となるだけでなく、思わぬ事故を招くおそれがあります。
- ・専用のソーラー接続ユニットを使用する場合を除き、太陽熱温水器とは直接接続しない。
太陽熱温水器の水温が高くなった場合に、お湯の温度制御ができなくなり、高温のお湯がそのまま出ます。
やけどの危険性が高く、機器の故障の原因になります。
- ・エネファーム対応機器は燃料電池発電ユニットと組み合わせる。

使用ガスの確認

- ・銘板(ラベル)に表示してあるガスの種類(ガスグループ)で使用する。
表示以外のガスを使用すると不完全燃焼や異常点火などの原因になります。

使用電源の確認

- ・電源は AC100V、50 / 60Hz 共用です。
表示以外の電源で使用すると、火災・感電の原因になります。
- ・必ず接地工事(アース)を行う。「10. 電気配線工事」参照
接地工事が不完全な場合は、感電事故の原因になります。



給水配管の確認

- ・温泉水や地下水、井戸水は、水質によっては機器を腐食させるおそれがあるので、機器に接続しない。
- ・この機器を快適に使用するためには、給水圧が 0.1 ~ 0.75MPa (1.0 ~ 7.5kgf/cm²) が必要です。設置場所の給水圧を確認してください。
- ・また、水圧が 0.75MPa (7.5kgf/cm²) 以上あるときは、減圧弁を取り付けるなどのウォーターハンマー対策を行う。
- ・エネファーム対応機器は燃料電池発電ユニットより、給水します。

(3) 設置場所のご注意

- ・設置場所を決めるときは、下記の注意事項を確認し、お客様とよく相談してください。
- ・建物の設計段階から、設置方法や配管・配線工事方法等に関する打ち合わせを十分してください。
- ・設置場所によっては、近隣の家と騒音や排気ガスの熱風によるトラブルなどが生じることがあるので、十分配慮して設置してください。
- ・公共の通路などに近接して設置する場合は、やけどや落下物・投棄物などによる障害およびいたずら操作を防止するよう配慮して設置してください。
- ・排気方向を変更する場合は、必ず指定の排気アダプター(上方、側方等)をご使用ください。
- ・塩害が考えられる地域(海に近く潮風が当たりやすい地域)では、機器本体の設置は建物の風下にするなどの注意をする。
やむを得ず海岸面に設置する場合でも、防風板を設けるなど、潮風が直接当たらないようにする。
また、水はけの良いところに設置する。



設置場所周囲の注意

- ・この機器は標高 1000m を超える場所に設置しない。
- ・ガスメーター・ガス配管や電気メーターなどの点検に支障のない場所に設置する。
- ・電気配線はガスメーターやガス配管に接触させない。漏電した場合、感電や火災の原因になります。
- ・ベランダ設置で、ベランダなどが避難通路となる場合は、600mm 以上の通路を確保する。
- ・据置設置の場合、排水状況を確認し、機器が冠水するような状態に設置しない。また、機器を設置した地面・床面は水が溜まらないよう排水処理をする。漏電や異常燃焼、機器の故障の原因になります。
- ・機器の排気が直接建物の外壁や窓・ガラス(網入りガラス含む)・網戸・アルミサッシなどにあたらないように設置する。
外壁やアルミサッシの変色、ガラスが割れるなどの原因になります。また、周囲の動植物への影響のないよう、設置場所を変えるか、排気方向変更の処置をしてください。

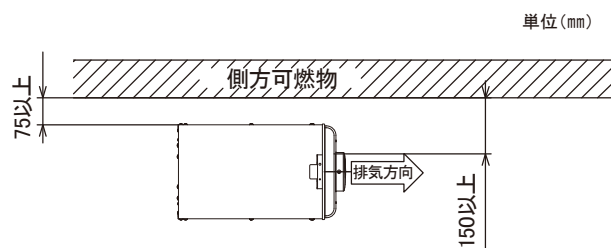
設置場所雰囲気への注意

- 腐食性ガス（アンモニア・塩素・硫黄・エチレン化合物・酸類など）の発生する場所や、引火性危険物（ガソリン・ベンジン・接着剤など）取り扱い場所および特殊薬品（ヘアースプレーなど）を使用する場所に設置しない。火災や機器の故障、異常燃焼の原因になります。
- 砂や綿などのほこりのたちやすい場所には設置しない。不完全燃焼の原因になります。
- 換気扇・レンジフード・エアコンなどからの風が機器の（給）排気に影響を与える場所に設置しない。不完全燃焼の原因になります。
- 機器のリモコンはガスコンロなどの燃焼機器の上に設置しない。機器やリモコンの故障の原因になります。

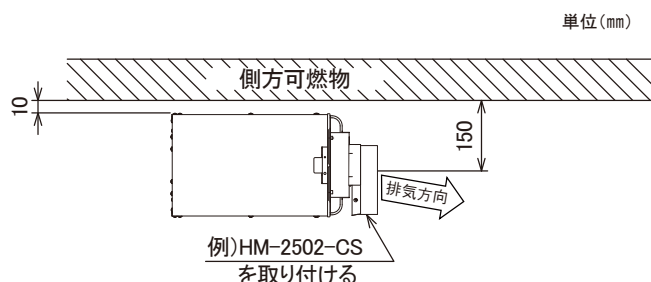
設置スペース

- この機器は狭小地設置に対応しています。ただし、設置場所の施工スペースや設置後のメンテナンススペースなどを考慮して、無理のない設置をしてください。
- 標準設置の場合と、排気アダプター等を使用して、側面近接設置する場合の下図設置例を参照して取り付け。
- ※側面近接する場合は、必ず前方排気偏向アダプター（HM-2502-CS）等を取り付けてください。

●標準設置

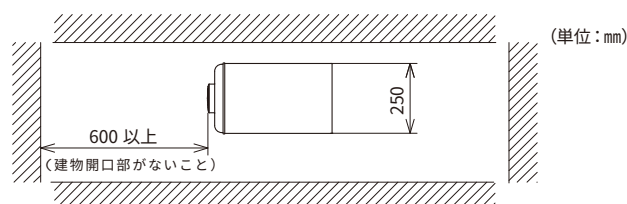


●側面近接設置対応



保守・点検スペース

- 機器の点検・修理ができるよう十分なスペースを確保する。特に機器前方は、600mm以上の空間を設けてください。
- 高所の外壁に機器を設置する場合は、機器正面でメンテナンス作業ができ、手すりなどの落下防止の処置のある場所に設置する。



火災予防上の注意

- 機器を設置する場所の周囲の壁・天井などから、防火上有効な間隔を確保できる場所に設置する。
 - 可燃物までの距離は、機器本体と排気口からの両方を満足するように設置する。
 - 棚の下など、落下物の危険のある場所や、洗濯の物干し場など、燃えやすい物のある場所には設置しない。火災の原因になります。
 - 機器・排気筒・排気筒トップ等の離隔距離を確保しないと火災の原因になります。詳細は「4. 機器の設置工事」の（1）設置基準を参照してください。
- ※ 離隔距離の基準は、各自治体により異なる場合がありますので注意してください。

給排気の注意

「4. 機器の設置工事」の（1）設置基準 **給排気設備** と、工事の詳細は（4）設置工事を参照してください。

(4)設置工事



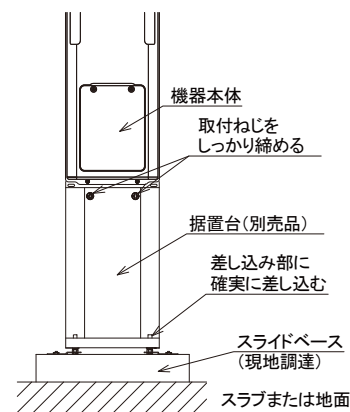
設置場所の工事

- この機器の重量は、約 40kg（機器満水時）あります。機器を設置する地面・床面は十分な補強工事が必要です。十分な補強工事がされないと機器の転倒および機器運転時の振動による影響が発生するおそれがあります。
- 機器を設置する場合、落下させたり衝撃を加えたりしない。
- 壁固定金具の取り付けや配管用の穴あけ作業の際は、壁内の電気配線やガス・水道配管などに注意する。
- 電気設備に関する技術基準により、メタルラス張り・ワイヤラス張り等の壁に、機器の転倒防止用の固定をする場合は、絶縁部品を取り付けて機器とメタルラスなどとは電氣的に接続しない。漏電が発生した場合、感電や火災の原因になります。
- 機器を取り付けたねじ類から建物内に水が入らないように必要に応じて防水処置をする。
- 機器および配管の破損で水漏れが発生した場合でも、室内への水の浸入を防止するために、電気・ガス・水等の各配管が屋外から屋内に貫通する部分は、必ず防水処置をする。

※ 平成 25 年 4 月施行の建築基準法改定に準拠するために、機器に付属のものを必ず使用し、壁面に固定する。

据置設置

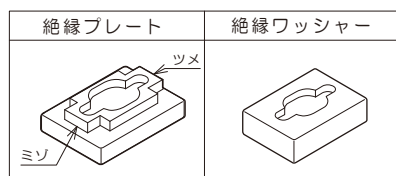
- 据置設置の場合は、水平な場所に設置して堅固に固定してください。
- ガス・給水・給湯・ふろ・暖房の各配管の接続位置は「16. 外形寸法図」を参照してください。
- 据置台および機器設置の施工手順は据置台工事説明書を参照し施工を行ってください。
- 「2. 別売部品」で据置台の品名を確認してください。
- メタルラス張り・ワイヤラス張り等の壁に、機器の転倒防止用の固定をする場合は、据置台に同梱されている絶縁部品を取り付けて、機器とメタルラスなどとは電氣的に接続しないようにしてください。
- 機器設置後、据置台のフロントカバーを下部差し込み部に差し込み、取付ねじをしっかりと締め込んでください。



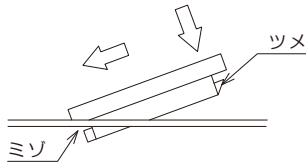
■絶縁部品を使用する場合

1. 据置台の壁固定金具に後面より絶縁プレートをはめ込みます。
2. 絶縁ワッシャーをかぶせて、丸木ねじで固定します。（下図を参照し取り付けてください）

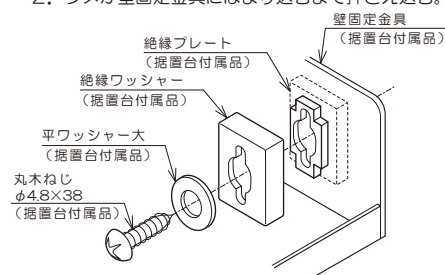
■ 絶縁プレート・ワッシャー取付け例



1. 絶縁プレートのミソを壁固定金具にはめ込むように入れる。

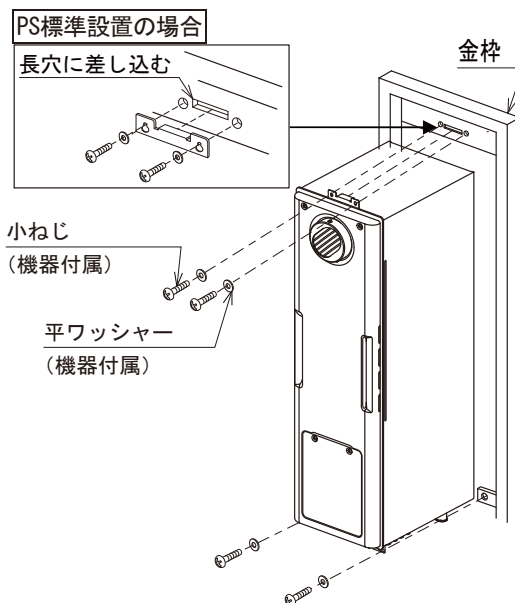


2. ツメが壁固定金具にはまり込むまで押さえ込む。



■PS 標準設置の場合

1. 金枠上部の長穴に機器本体取付金具折り曲げ部を引っ掛けます。
2. 機器上部の機器本体取付金具左右の穴と金枠を付属の平ワッシャー（小）と M5 × 16 小ねじで固定します。（2箇所）
3. 機器下部左右の穴と金枠を付属の平ワッシャー（小）と M5 × 16 小ねじで固定します。

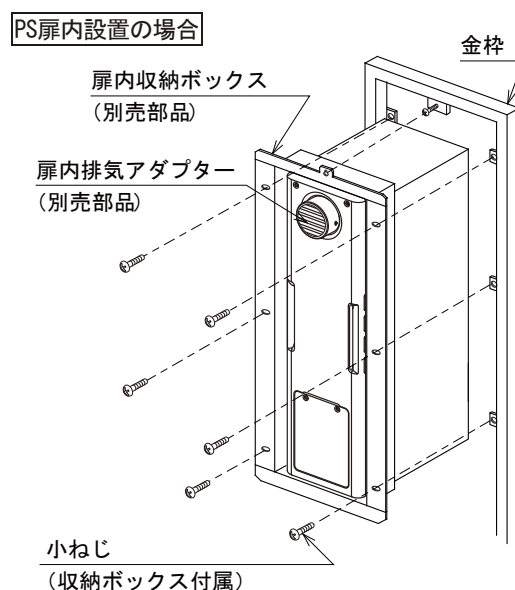


■PS 扉内設置の場合

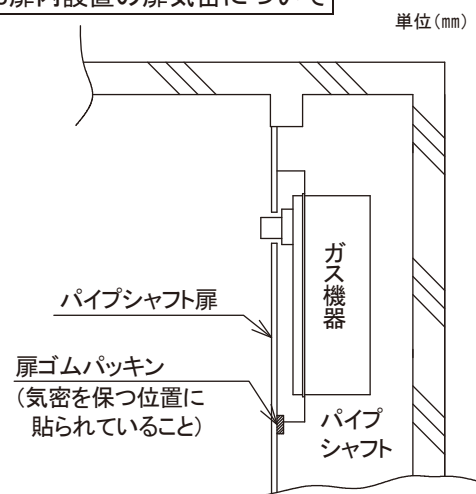
※PS 扉内設置の場合は、別売部品の扉内排気アダプター（THA-1000）が必要になります。

- 機器に扉内排気アダプター（別売部品）を取り付けた後に、下記手順に従って設置を行ってください。扉内排気アダプターの取り付け方法は扉内排気アダプターに同梱されている工事説明書を参照してください。
- 機器を設置するには、別売部品の扉内収納ボックス（SB-9800）が必要です。
- 扉内取付金枠と扉内収納ボックスと機器本体は、気密性を保つように設置してください。
- PS 扉内機器設置時に PS 扉と機器の気密を保つゴムパッキンの位置を確認してください。
- 気密に不備のある場合は、ゴムパッキン取り付けや当り板取り付け等の対策を行い気密を確保してください。
- 扉内収納ボックスの取り付け方法は扉内収納ボックスの設置工事説明書を参照して施工してください。

1. 機器を扉内収納ボックスに取り付けます。
※扉内収納ボックスの取り付け方法は扉内収納ボックスの工事説明書を参照して施工してください。
2. 金枠上部の穴に M5 小ねじ（扉内収納ボックス付属部品）を仮止めします。
3. 扉内収納ボックス上部のひょうたん形の穴を扉内設置用取り付け金枠上部に仮止めしたねじに引っ掛けます。
4. 扉内収納ボックスの左右の穴（各 2 箇所）を取付金枠の穴に合わせ、M5 小ねじ（6 本：扉内収納ボックス付属部品）で固定してから上部の M5 小ねじ（1 本）を締めます。



PS扉内設置の扉気密について



単位 (mm)

5. 給水・給湯配管工事



- ・配管工事は当該地区の指定工事店に依頼し、水道事業条例などの規定に従う。
- ・給水、給湯配管は、地域に応じた保温処置をする。
- ・各配管が正常に工事されないと、熱源機の故障の原因になります。
- ・配管内のゴミ等が機器内に入ると故障の原因になりますので、ゴミ等が入らないよう注意する。

- ・配管工事は据置台側面パネルを取り外しての作業も可能です。

給水配管

■配管上のご注意

- ・地下水や井戸水の注意および温泉水使用不可。
この機器は上水道用です。地下水・井戸水（簡易水道を含む）を使用すると、水質によっては機器内の配管内部に異物が付着したり短期間で銅管を腐食させるなど、耐久性を損なう場合や、機器が正しく作動しないことがあります。地下水・井戸水（簡易水道を含む）を使用する場合は施工前に十分水質※を確認してください。ただし、地下水・井戸水（簡易水道を含む）には様々な成分が溶け込んでいるため、機器に対する影響は正確に判断できませんので、保証期間内でも有料修理となります。※飲料水適合していることを原則として、硬度 60mg/ℓ以下・pH7～8・遊離炭酸 4mg/ℓ以下が望ましい。温泉水は使用しないでください。
- ・太陽熱温水器との接続はしないでください。専用のソーラー接続ユニットを使用する場合を除き、太陽熱温水器と直接接続しないでください。太陽熱温水器の水温が高くなったときに、お湯の温度制御ができなくなり、高温のお湯がそのまま出ます。やけどの危険性が高く、また機器の故障の原因になります。
- ・機器の給水接続口付近に、必ず逆止弁と給水元栓、または逆止弁付き給水元栓を取り付けてください。
※エネファーム対応機器は、逆止弁が不要です。
- ・給水元栓を取り付けられない場合、機器の点検などができなくなります。
- ・継手類はできるだけ少なくし、配管途中に空気溜りのできるような、複雑な配管は避けてください。誤作動の原因になります。
- ・配管口径は、機器の接続口径以下にしないでください。定格能力が確保されません。
- ・配管材料は、必ず水道事業者の承認または検査に合格したものを使用してください。
- ・この機器をお客様に快適に使っていただくには、給水圧が 0.1～0.75MPa（1.0～7.5kgf/cm²）が必要です。
特に給水圧が低い場合には、機器の能力が十分発揮されず、お客様とのトラブルの原因になりますので、加圧ポンプを設置するなどの対策を講じてください。
※エネファーム対応機器は燃料電池発電ユニット側に依存されますのでこの限りではありません。
- ・給水圧が高い場合には、減圧弁を取り付けるなどのウォーターハンマー対策を行ってください。

■給水配管工事

- ・給水配管と機器を接続する前に、給水元栓を開けて、配管内の切粉、ゴミ、砂などを排出してください。
- ・接続にはユニオン継手またはフレキシブル管を使用し、無理な力をかけないでください。ただしフレキシブル管を使用する場合は、地域の水道条例によっては規制されることがありますので注意してください。
- ・給水配管と機器を接続した後、通水テストを必ず行い、給水元栓を閉めてから給水接続口内部のフィルターを取り出し、フィルターを掃除してください。
- ・エネファーム対応機器は燃料電池発電ユニットの工事説明書をご参照ください。

給湯配管

■配管上のご注意

- ・配管が長いと、それだけお湯の出始めが遅くなります。できるだけ短距離になる配管をしてください。
- ・混合水栓は、通水抵抗の少ないものを選んでください。
シャワーヘッドもできるだけ圧力損失の少ないものを使用してください。
- ・配管はできるだけ機器と同じ高さにしてください。
階上に給湯する場合は、余分に給水圧力が必要となります。給水圧 0.15MPa（1.5kgf/cm²）以上あれば 2 階給湯は行えます。また階下への給湯は、1 フロア下までにしてください。
（1 フロアを超えて給湯すると機器内部が負圧になり、お湯が沸騰する場合がありますので避けてください。）
- ・必要以上の太い配管はしないでください。
- ・継手類はできるだけ少なくし、配管途中に空気溜りのできるような複雑な配管は避けてください。誤作動の原因になります。
- ・2 箇所以上で同時にお湯を使用するときは、配管の方法、特に機器から遠い場所、高い位置の給湯栓ではお湯の出ない場合もありますので、十分検討してください。

■給湯配管工事

- ・鉛管や水道用塩ビ管は絶対に使用しないでください。機器の使用直後に熱交換器の後沸きにより塩ビ管が破裂し、熱湯が噴き出し多量の水漏れの原因になります。
- ・樹脂管による配管の場合は、指定されたものを使用してください。
- ・銅管を使用する場合、銅管と継手類の接合は、漏水防止のため必ず低温ロウ（ハンダ）付けで行ってください。

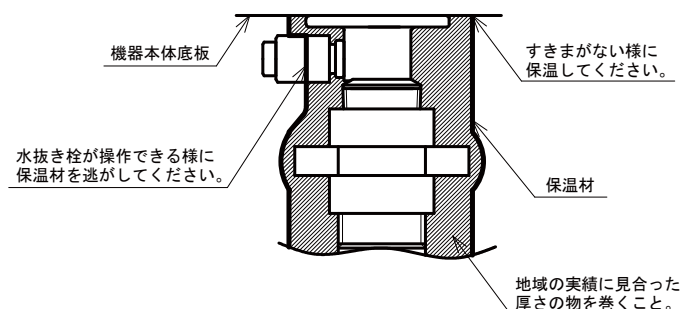
定期点検のおすすめ（有料）

- ・本機器は、給水用具（逆流防止装置）を内蔵しています。機器を安全・快適にお使い頂くために、公益社団法人日本水道協会発行の「給水用具の維持管理指針」に示されている定期点検の実施をおすすめします。
- ・時期は 4～6 年に 1 回程度をおすすめします。

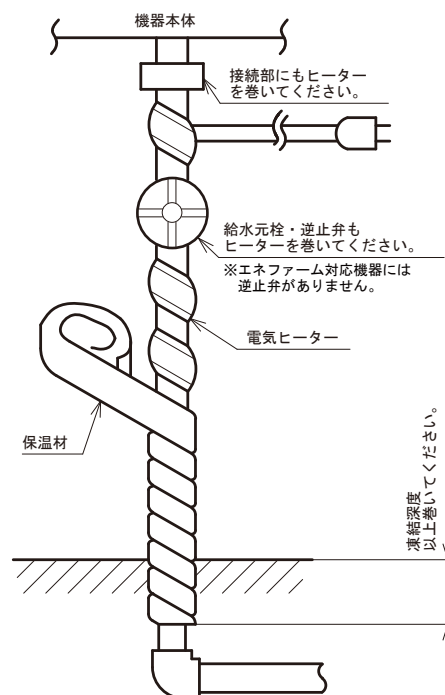
凍結予防

- 地域に応じた凍結予防処置（保温材巻き、電気ヒーターなど）をしてください。
 - 給水、給湯配管に水漏れがないことを確認した後、配管を完全に保温してください。配管内の水抜きが容易にできるよう処置してください。（水抜き栓を保温材で包み込まないでください）
- ※パイプシャフト内の配管には電気ヒーターを巻けませんので、保温材を厚めにしてください。

保温材巻きつけについて



保温材（ヒーター）巻きつけについて

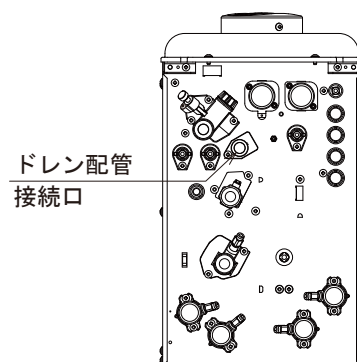
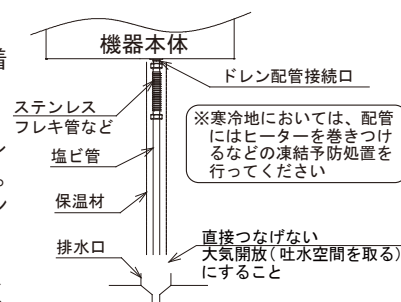


6. ドレン配管工事

ドレン配管

配管工事は下水道事業者の指定工事店に依頼し、下水道法に基づき施工してください。

- ドレン配管は、必ず排水口まで導いてください。
この際、ポリタンク等でドレン水等を受けることは絶対にしないでください。
この機種は、暖房水の自動補給方式を採用していますので、万一電磁弁にゴミが付着した場合、水がドレン管に流れるおそれがあります。
ポリタンク等でドレン水等を受けると水があふれますので、絶対にやめてください。
- この機器は、潜熱回収型高効率製品のため、燃焼時に「ドレン配管接続口」からドレン水が排出されます。（最大約 100cc / min）必ずドレン配管工事を行ってください。
- ドレン配管は、塩ビ管を使用してください。（機器下の配管のつなぎ部位のみステンレスフレキ管等を使用）また、ドレンが滞留しないように必ず下り勾配とすること。（1 / 50 以上の勾配）
- ドレン配管接続口は樹脂製ですので、接続時には無理な力がかからないようにしてください。
- お客様要望により逆流防止装置の動作を確認する場合があるため、ドレン配管は機器との取り外し取り付けが容易な接続としてください。シーリング剤を用いないでください。
- 機器のドレン配管接続口径は、15A になっています。ドレン配管の径は途中で細くしないでください。
- ドレン配管は、できるだけ短くしてください。（配管途中で横引きする場合は、下り勾配にしてください）
- ドレン配管の先端は大気開放とし、水につからないようにしてください。
またゴミづまりのないように注意してください。
- ドレン配管は雨水立て管には直接接続しないでください。（間接的に排出するのは可）
- ドレン排水を雨水系統に排水できる場合があります。雨水系統への排水可否は、「潜熱回収型ガス給湯器などのドレン排水の取り扱い（国土交通省発行）」を参照し、各自治体に確認してください。
- 凍結予防のため、地域に応じた保温処置（保温材巻き、電気ヒーターなど）をしてください。



■配管上のご注意

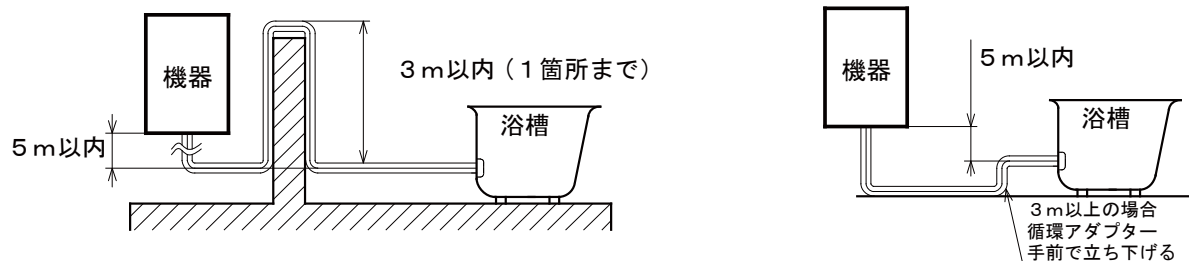
- ・配管の長さは、できるだけ短くしてください。
- ・最小曲げ半径などの施工の条件・方法については樹脂管メーカーに確認してください。
- ・地域に応じた凍結予防処置（保温材巻き、電気ヒーターなど）をしてください。
- ・水漏れ検査をして、配管に漏れがないことを確認した後、配管を完全に保温してください。
- ・配管内のゴミ等が機器内に入ると故障の原因になりますので、ゴミ等が入らないよう注意してください。
- ・人工炭酸泉装置が設置される場合は、追いだき配管をしないでください。人工炭酸泉装置は高濃度の炭酸ガスを湯に溶かしこむため、弱酸性となります。そのため、追いだきを行うと機器内の配管・内胴・浴槽内の循環金具等が変色・腐食する場合があります。
- ・MC-910-BNを取り付けた場合は、追いだき戻口は閉止して、追いだき往口からオーバーフロー配管として排水処理をしてください。両側閉止は絶対に行わないでください。
- ・配管材料は、指定のφ10樹脂管、またはφ12.7銅管を使用してください。

- φ10 樹脂管：15m 以内 ただし、設定変更により 25m まで対応可能（浴室配管を含む）
- φ12.7 銅管：15m10 曲り以内（浴室配管を含む）

15m を超える場合は、次項の「ふろ配管延長の設定方法」を参照し設定変更を行ってください。

・機器と浴槽の上下関係

- 機器と浴槽の間の障害物
配管の途中に障害物がある場合は、高さ 3 m 以内で 1 個所としてください。
- 機器が浴槽より高い場合
機器が浴槽の循環アダプターから高さ 3 m 以上に施工される場合、循環アダプター手前で立ち下げてください。



- 12 -

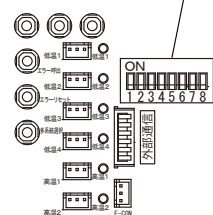
■ふろ配管延長の設定方法

必ず電源プラグを抜く、または屋内分電盤のブレーカーを OFF にして行ってください。

1. 機器点検扉を開けます。
2. 電装基板上的のディップスイッチにて下表に従い設定変更します。
その他のスイッチは変更しません。

配管長さ	ディップスイッチ	
0 ～ 15 m	設定不要 工場出荷時 7…OFF	
15 超 ～ 25 m	7…ON	

ディップスイッチ

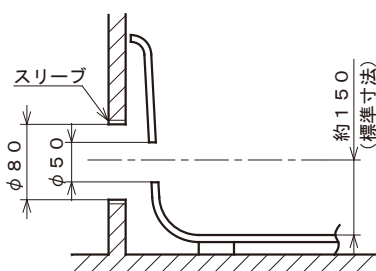


テスト1

点検扉を開ける

■浴槽の穴あけ工事

- ・浴槽の底部から約 150mm の、できるだけ浴槽の中心に近い位置で循環アダプター取り付け面が平面な部分（直径 80mm 以上を確保）に、 $\phi 50 \pm 1\text{mm}$ の穴を 1 箇所あけてください。この標準寸法以外では、沸き上がり温度が均一になりにくくなり、湯張り水位にバラツキがでることがあります。
- ・浴槽穴あけ後のバリをきれいに取り除いてください。
- ・循環アダプターのパッキン当たり面は、厚みが均一になるよう浴槽の保温材を除去し、内側、外側とも凹凸のないように仕上げてください。穴あけ後のバリや凹凸があると水漏れの原因になります。



■循環アダプターについて

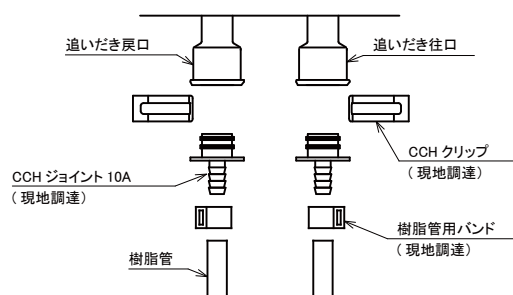
- ・循環アダプター（別売部品）は、ガス会社指定品の中から設置条件、配管材料に合わせて選定してください。
- ・循環アダプターに同梱されている工事説明書に従い、正しく工事してください。
- ・締め過ぎによるパッキンのねじれなどは、水漏れの原因になります。
- ・循環アダプターに往・戻の指定がある場合は、機器底面の表示を確認して接続してください。
- ・機器本体取り替えの際は、循環アダプターも交換する必要がありますので、点検口を設けるなど、取り替えできる場所に設置してください。

■配管と機器との接続

- ・ふろ配管には接続継手が別途必要となります。
- ・最小曲げ半径などの施工の条件・方法については、樹脂管メーカーに確認してください。
- ・樹脂管接続、銅管接続により接続継手が異なりますので接続方法にあった部材を用意してください。
- ・差し込み時、挿入部の Oリングに傷、ゴミなどの付着がないことを確認してください。
- ・配管工事は据置台側面パネルを取り外しての作業も可能です。

樹脂管接続の場合

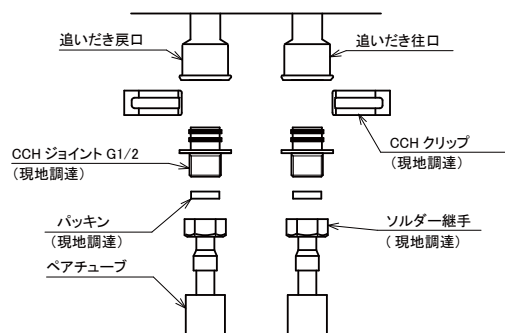
- ・ふろ配管に樹脂管を使用する場合は、CCH ジョイント 10A（別売部品）と CCH クリップ（現地調達）を使用してください。
- ・最小曲げ半径などの施工の条件・方法については、樹脂管メーカーに確認してください。



銅管接続の場合

〈1/2 袋ナット接続〉

- ・配管に銅管を使用する場合は、CCH ジョイント G1/2（現地調達）と溶ダー継手（現地調達）を使用してください。
パッキン（現地調達）を必ず使用してください。



ふろ配管水漏れ検査

- ・水漏れ検査は、保温工事の前に、圧力試験と目視・触感で行ってください。
- ・循環アダプターに適合した検査治具を使用してください。取り付け手順などは、検査治具の説明書に従ってください。
- ・検査に使用する圧力計は、検査圧力に見合ったものを使用してください。
- ・検査圧力と時間は0.2MPa（2.0kgf／cm²）で30分以上行ってください。
- ・圧力漏れが発見された場合は、検査治具をいったん外し、浴槽穴あけ部のバリやゴミおよびパッキンのねじれなどがないことを確認し、再度検査を行ってください。

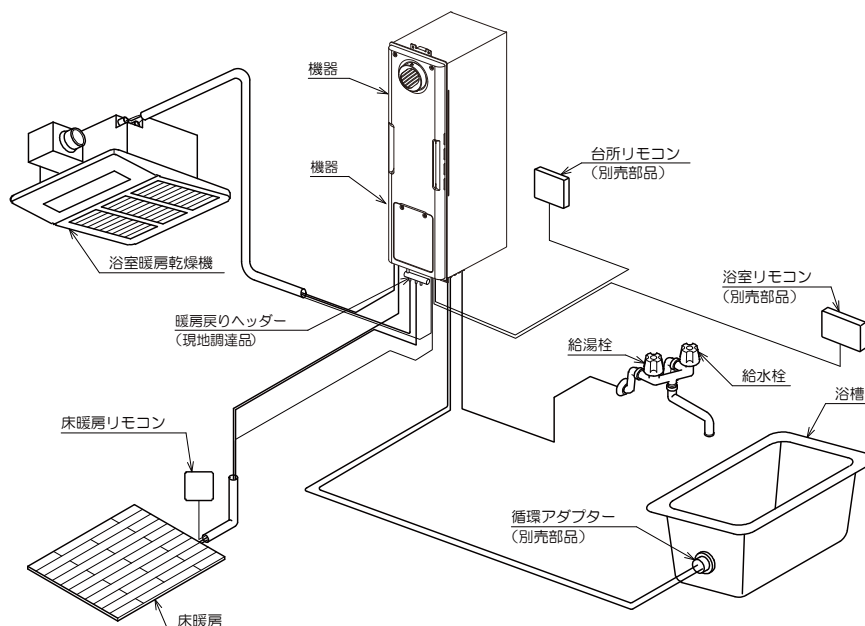
⚠注意 機器には0.3MPa（3.0kgf／cm²）以上加圧しない。

8. 暖房配管工事

■暖房配管工事

システム図

配管位置は実際とは異なります



配管前のご注意

- ・各暖房配管の流量および抵抗計算を行い、各放熱機に標準流量が流れることを確認してください。
- ・システム全体の保有水量は、機器内2.6Lを含め35L（銅管システムの場合は24L）以下にします。これを超えると、暖房運転時に設定以上の暖房水（膨張分）がドレン配管から流出し、冷却時に自動補給します。頻繁に自動補給が行われるとリモコンに故障表示をし、暖房運転ができなくなります。
- ・「6. ドレン配管工事」の「ドレン配管」も参照してください。
- ・端末機までの距離に応じて、φ7またはφ10の樹脂管を選定してください。

配管上のご注意

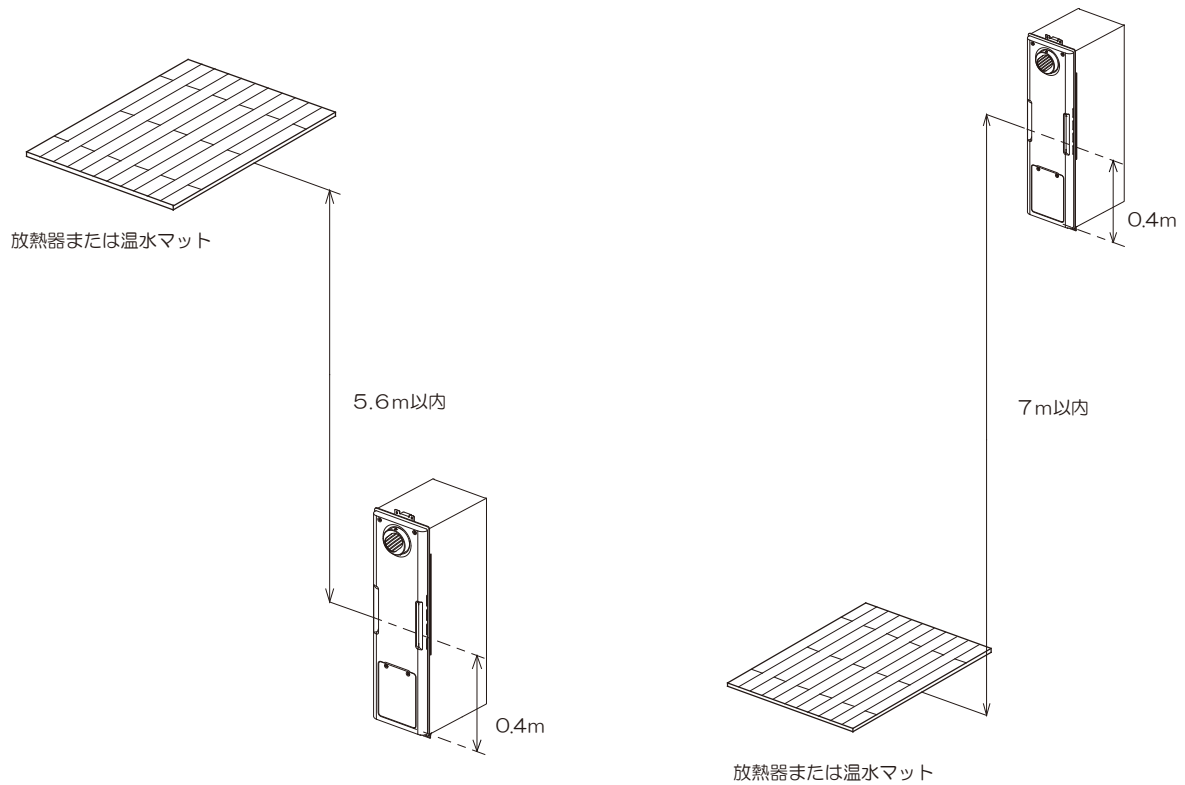
- ・指定の配管材料を使用してください。
- ・最小曲げ半径などの施工の条件・方法については、樹脂管設計・施工マニュアルで確認してください。
- ・暖房配管は原則として隠ぺい配管とし、隠ぺい部での接続は行わないでください。
- ・配管が露出する場合には、耐候性および美観を考慮し、スリムダクトなどの化粧カバーを使用してください。
- ・暖房往・戻の統一のため、樹脂管の場合は配管部材の表面に線が入っている側、銅管の場合は表面が着色されている側を往側としてください。
- ・不凍液を使用しない場合は、凍結、放熱を考慮して、地域に応じた配管の保温処置をしてください。
- ・不凍液を使用する場合は、指定品を使用し、その使用説明書に従ってください。

機器との接続

- ・ヘッダー（別売部品）は、暖房系統数に合わせて選択してください。
- ・ヘッダー（熱動弁付ヘッダーは除く）の接続口のうち、どれか一つは、漏れ検査と水抜きに使用するため接続はせず、CH止水栓（現地調達）およびCHクリップ（現地調達）もしくはスナップジョイント止水栓（現場調達）を確実に差し込んでください。接続しない接続口についても同様です。
- ・使用しない機器の暖房接続部は、必ずCH止水栓（現地調達）およびCHクリップ（現地調達）を確実に差し込んでください。CH止水栓を取り付けていないと水漏れが発生します。
- ・配管を機器と接続するとき、暖房往・戻を間違えないでください。
- ・ヘッダーやCHジョイント、CH止水栓およびスナップジョイント止水栓などのOリングに傷、汚れ、異物の付着がないことを確認して接続してください。

端末機の高低制限

- 端末機が機器より上方にある場合
機器の上下中心より 5.6m 以内
- 端末機が機器より下方にある場合
機器の上下中心より 7m 以内



暖房配管水漏れ検査

- 水漏れ検査は、圧力試験と目視・触感で行ってください。
- 検査に使用する圧力計は、検査圧力に見合ったものを使用してください。
- 検査圧力と時間は、0.2MPa (2.0kgf / cm²) で 30 分以上行ってください。

9. ガス配管工事



- ・設置する機器が使用するガスの種類（ガスグループ）に適合していることを、機器の銘板で確認する。
- ・表示以外のガスを使用すると不完全燃焼や異常点火などの原因になります。

ガス栓

- ・機器を使用する場所にガス栓がない場合、またはあっても位置や寸法が適切でない場合は、新設・移設または交換などが必要です。ガス事業者に相談して専用のガス栓を必ず設置する。

ガス接続

- ・ガス配管工事については、ガス事業者の指示に従う。
- ・この機器のガス接続口径は 20A（R3 / 4）です。

機器へのガス接続に必要な資格について

- ・都市ガス用機器の場合、内管工事士、簡易内管施工士、ガス機器設置スペシャリスト、ガス可とう管接続工事監督者のいずれかの必要な資格を有する者が施工すること。
- ・ガス配管は、強化ガスホース、金属可とう管または金属配管としてください。（ゴム管接続はできません）
- ・配管口径は、機器の接続口径以下にしないでください。ガス量が十分に供給されず、能力が確保できません。
- ・ガス配管工事後、接続部にガス漏れがないか確認してください。
- ・機器の移動、撤去等でのねじ接続配管工事については、有資格者により正しく行ってください。

10. 電気配線工事



- ・設置する機器が使用する電源（電圧・周波数）に適合していることを、機器の銘板で確認する。
- ・すべての電気配線工事が完了するまで、機器の電源プラグをコンセントに差し込まない、または屋内分電盤のブレーカーを ON にしない。感電や機器の故障の原因になります。

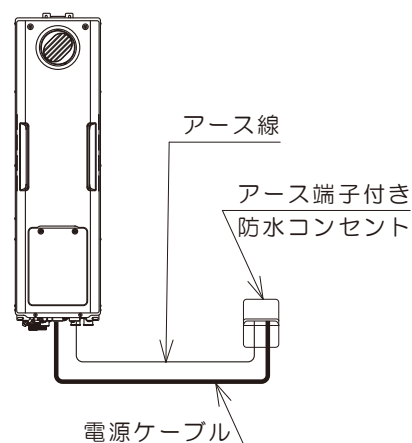


配線上のご注意

- ・この機器は、AC100V 電源が必要です。またアース（接地）も必要です。電気設備に関する技術基準など電気設備関連法規を遵守して工事してください。
- ・電気配線は、電力会社の指定工事店に依頼してください。
- ・電源ケーブルはガス管等に接触しないように、また機器排気口の放熱等の影響を受けないように配線してください。
- ・電源ケーブルが余った場合は、機器内に入れず、据置台や配管カバーなどの中にまとめてください。機器内に入れると故障の原因になります。
- ・AC100V 電源は必ず専用回路としてください。

PS（パイプシャフト）内以外の電源コンセント

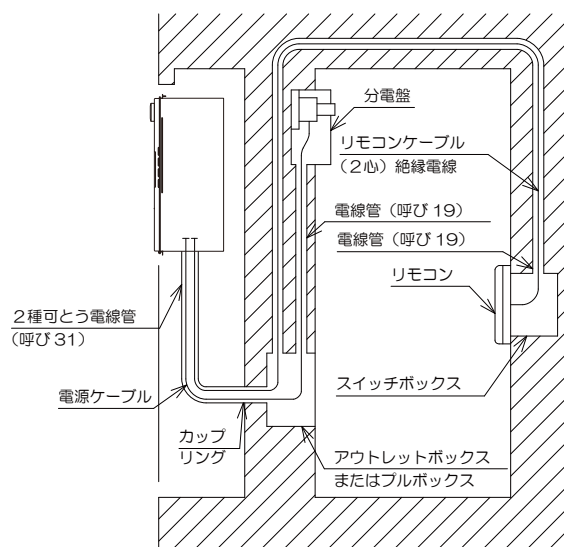
- ・機器の電源は、AC100V（50/60Hz 共用）です。消費電力は銘板で確認の上、必ずこれに適したコンセントを設けてください。
- ・コンセントは地上から 300mm 以上で、電源プラグの抜き差しができ、機器排気口の放熱等の影響を受けない位置に設けてください。
- ・コンセントは JIS 防雨形屋外タイプ（接地端子付）を使用してください。やむを得ず他のコンセントを使用する場合は、雨などの影響を受けないよう、防水箱に収めるなどの処置を行ってください。
- ・コンセントとガス管および水道管とは 100mm 以上離してください。



PS（パイプシャフト）内設置の場合

- PS 内に機器の電源の配線、リモコンの配線を行う場合は、電気設備に関する技術基準を遵守してください。
- PS 内はケーブル工事としてください。
- PS 内では、パイプシャフト用の電源ケーブルを使用してください。
- ケーブル配線は、可とう電線管で保護してください。
- 壁等にラス網、金属張りのものが埋め込まれている場合、金属製の電線管および可とう電線管がこれに接触しないようにしてください。
- 機器本体をパイプシャフト内に設置する場合、リモコンケーブルは絶縁電線を使用してください。（AC100V ケーブルと並走する範囲）
- PS 内では、電源用ケーブルおよび接続電線を切断接続しないでください。
- PS 内および内壁面には、配線ボックスを使用しないでください。ただし、防爆構造を施したものはこの限りではありません。
- 電線管が PS 内壁面を貫通する部分は、コーキング材によりシールし、パイプシャフトの PS 外との気密が保たれる設置をしてください。
- AC100V ケーブルとリモコンケーブルは、可とう電線管に同時に収めることができますが、可とう電線管以後は AC100V ケーブルとリモコンケーブルとは別経路としてください。
- 分電盤は専用回線にしてください。
- ガス配管とケーブルとは接触しないようにご注意ください。

※防爆工事は電気設備に関する技術基準を定める省令の基準に準じてください。

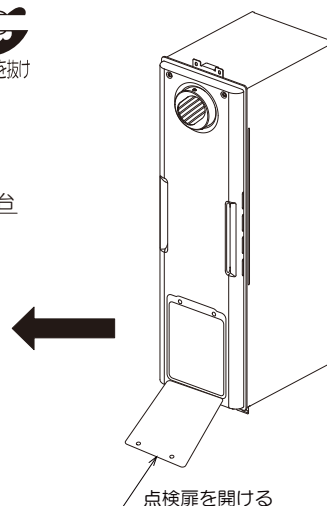
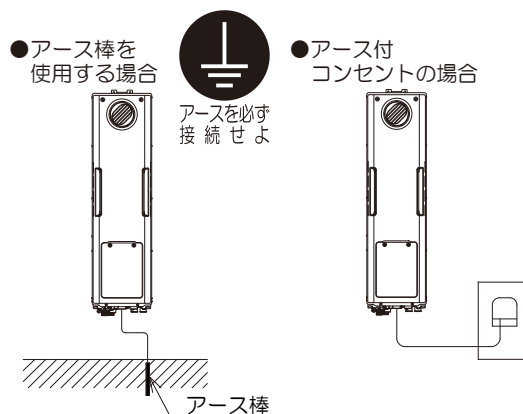
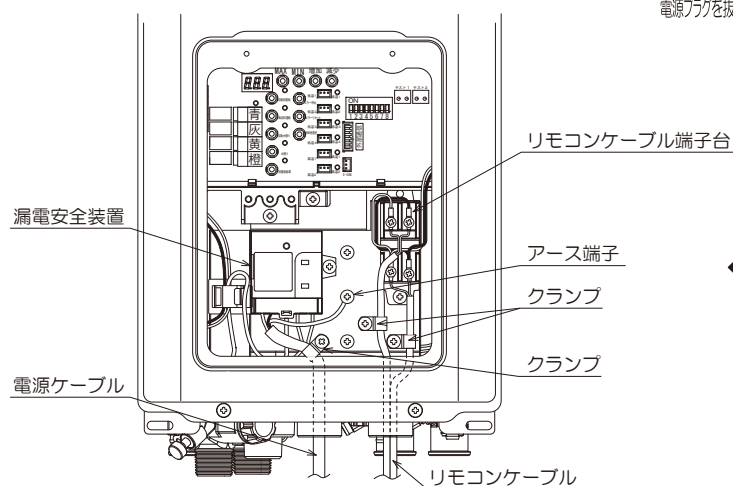


接地（アース）工事

- この機器は接地（アース）工事が必要です。
- アース棒などを使用して設置工事する場合は、電気工事士による D 種接地工事（接地抵抗 500Ω 以下）が必要です。
- アース付コンセントの場合は、コンセントのアース端子と接続してください。
- アース線は、1.6mm 以上の軟銅線を使用してください。
- アース線は、ガス管や水道管、電話や避雷針のアース回路には接続しないでください。また他の製品のアース回路にも接続しないでください。
- アース端子は、機器本体の底面のアース表示、または機器内の電装基板下部のアース表示で接続端子を示してありますので、工事に合わせていずれかを使用してください。
- この機器には、漏電安全装置（感度電流 6mA、作動時間 0.1 秒以下）を内蔵しています。

●機器と電源ケーブル・リモコンケーブル接続例

- 必ず電源プラグを抜く、または屋内分電盤のブレーカーを OFF にしてから作業を行うこと。



機器と電源ケーブルの接続

■電源ケーブルについて

- 電源ケーブル（現地調達）は、VCT2 心、または 3 心を使用してください。
- ケーブル接続の場合は VCT, VWF, VVR 2 心または 3 心を使用してください。

■機器と電源ケーブルの接続手順

1. フロントカバーの点検扉を開けます。（ねじ 2 本）点検扉は試運転終了後に取り付けてください。
2. 上記の図を参照し、電源ケーブルを電線管接続口（グロメットを取り外さないこと）から機器内へ入れてください。
3. 電源ケーブル先端に丸型端子（現地調達：樹脂スリーブ付）を取り付け、漏電安全装置（漏電リレー）のカバーを開け、一時側に取り付けてください。（3 心の場合は上記の図の位置にアースを取り付ける）
4. 漏電安全装置のカバーを元どおりに閉めて、電源ケーブルをクランプで固定してください。



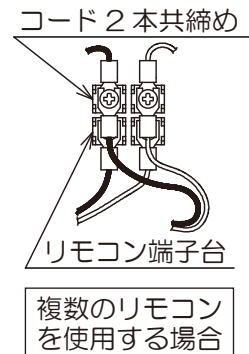
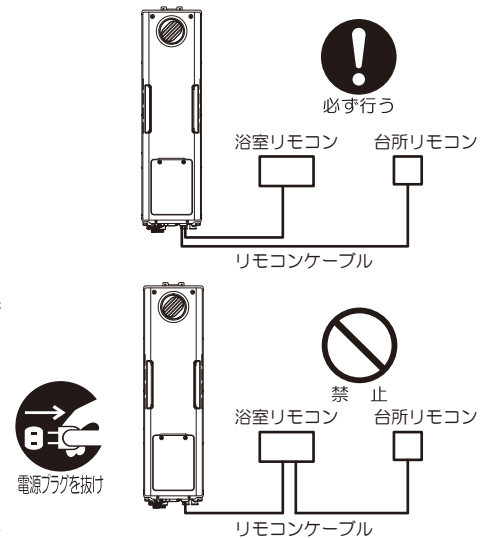
機器とリモコンケーブルの接続

■リモコンケーブルについて

- ・リモコンケーブルはガス会社指定品を必ず使用してください。
- ・工事の際は、電気設備に関する技術基準などの関連法規を遵守してください。
- ・リモコンケーブルは、必ず機器本体の電装基板から配線してください。
- ・リモコンケーブルは、1つのリモコンに付き長さ 25m 以内で使用してください。25m を超えると機器の作動不良の原因になります。
- ・リモコンケーブルと電源ケーブルとは、並走させないでください。
- ・リモコンケーブルを途中で中継してリモコンからリモコンへ配線しないこと。
- ・1つのリモコンに対し、1本のリモコンケーブルを使用してください。機器の故障・作動不良の原因になります。

■機器とリモコンケーブルの接続手順

- ・リモコンケーブルの接続が完了するまで、機器本体の電源プラグはコンセントに差し込まない、または屋内分電盤のブレーカーを ON にしないでください。リモコンや機器の故障の原因になります。
1. フロントカバーの点検扉を外します。(ねじ 2 本) 点検扉は試運転終了後取り付けます。
 2. リモコンケーブル先端に Y 型端子 (リモコンに付属の樹脂スリーブ付) を取り付けます。
前記の図を参照し電源とは別の電線管接続口から機器内へ入れます。その際、グロメットを取り外さないこと。
 3. リモコンケーブルの端子をリモコン端子台に確実に接続します。
※増設リモコンなど複数のリモコンを使用する場合、端子台 1 つにケーブル 2 本まで共締め可能です。
 4. リモコンケーブルをクランプで固定します。ケーブル 3 本を接続する場合は、機器内で 1 本にまとめて圧着した後、端子台に接続します。
※リモコンケーブルが余った場合は、機器内に入れず、据置台や配管カバーなどの中にまとめてください。機器内に入ると故障の原因になります。
- ・機器との電源ケーブルおよび、リモコンケーブル接続はフロントカバーを取り外して配線作業を行うこともできます。

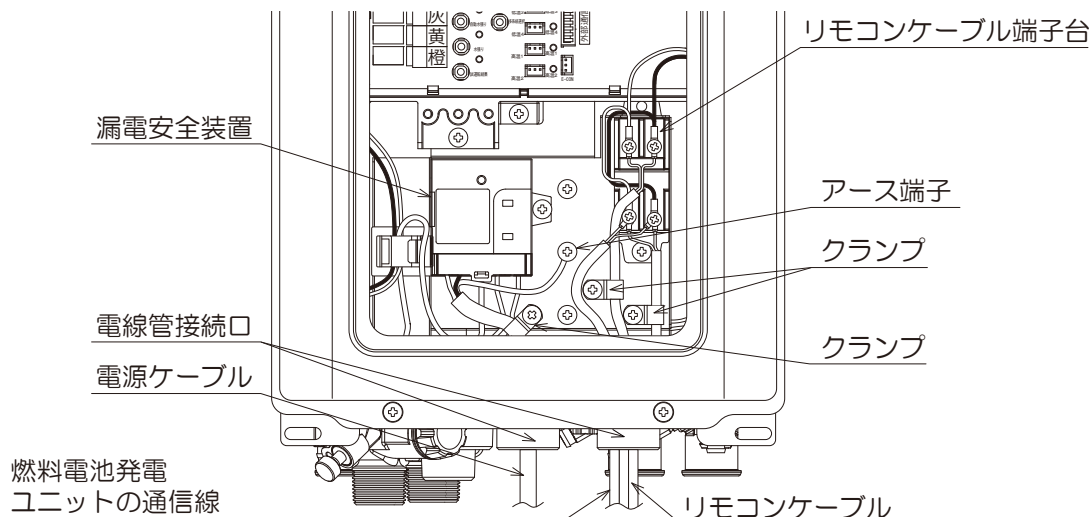


リモコンの設置

- ・リモコンは、別売部品の中から指定されたものを使用してください。(別売部品リストを参照してください)
- ・リモコンの施工、接続はリモコンに付属の工事説明書に指定された工事で設置してください。
- ・リモコンは、段差のない壁面に設置してください。
- ・フルオートタイプは高機能タイプの浴室リモコンで、体脂肪率測定および消費カロリーの測定が可能です。体脂肪率を測定する場合、浴槽に入った状態で操作を行いますので必ず、浴槽に入った状態で十分操作ができる場所に設置してください。

■機器と燃料電池発電ユニットの通信線の接続

1. フロントカバーの点検扉を外します。(ねじ 2 本) 点検扉は試運転終了後取り付けます。
 2. 燃料電池発電ユニットの通信線先端に Y 型端子 (樹脂スリーブ付) を取り付けます。下記の図を参照し電源とは別の電源接続口から機器内へ入れてください。その際、グロメットを取り外さないこと。燃料電池発電ユニットの通信線が余った場合は、機器内に入れず、据置台や配管カバーの中にまとめてください。機器内に入ると故障の原因になります。
 3. 燃料電池発電ユニットの通信線の端子をリモコン端子台に確実に接続します。
- ※ 燃料電池発電ユニット側の接続については燃料電池発電ユニットの設置工事説明書を参照してください。
- ※ 燃料電池発電ユニットと接続されていない場合は、リモコンに故障表示「769 (通信エラー)」が表示されます。

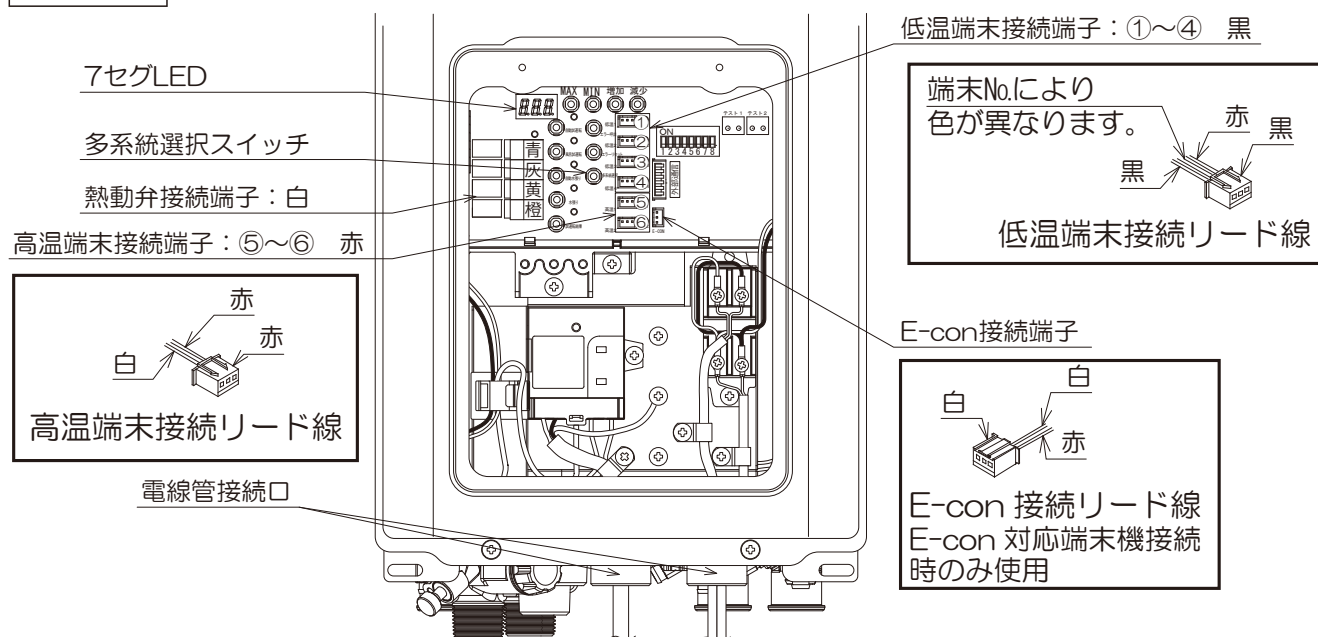


11. 暖房信号線接続工事

- ・暖房信号線接続工事は、必ず電源プラグを抜く、または屋内分電盤のブレーカーを OFF にしてください。
- ・高温暖房は、インテリジェント通信（自動試運転機能付）対応の端末と、E-con 端末の併用ができます。
- ・低温暖房（床暖房リモコンを使用する場合）は、インテリジェント通信対応の端末および高機能タイプの台所リモコンと接続ができます。（高機能タイプの台所リモコン接続の際はリモコンの設定が必要となりますので、リモコン付属の説明書を参照し、設定を行ってください）
- ・床暖房リモコン側で信号線を分岐しないでください。機器の故障や作動不良の原因になります。
- ・信号線を、機器底部の電線管接続口（電源とは別の箇所を選ぶ）から機器内に引き込む際、電線管接続口のグロメットを取り外さないでください。



信号線の接続



- ・電装基板の低温端末接続端子（黒コネクタ①～④）は高温・低温兼用です。
高温端末接続端子（赤コネクタ⑤⑥）は高温専用です。
低温端末接続端子①～④には低温端末接続リード線（高温にも使用可能）を、高温端末接続端子⑤⑥には高温端末接続リード線を使用します。
- ・低温暖房 4 系統＋高温暖房 2 系統まで接続できますが、低温暖房を 3 系統以下で使用する場合は、空いた低温端末接続端子（黒コネクタ）を高温暖房用に使用して高温暖房系統数を増やすことができます。
- ・低温用として使用する場合は、付属の低温端末接続リード線（3 心）を圧着接続します。
高温用として使用する場合は、付属の高温端末接続リード線（2 心）を圧着接続します。
高温用として低温端末接続リード線（3 心）を使用する場合には、黒いリード線を除いた 2 心を圧着接続します。
- ・接続リード線と信号線の接続部分（圧着端子）は機器内に入れてください。
機器外では、接続部分の心線が腐食するなどの故障の原因になります。
- ・接続リード線を整線し、電装基板カバーの内側に収めるようにしてください。
- ・接続リード線接続部がケース底面に接触しないようにする。

低温端末の接続

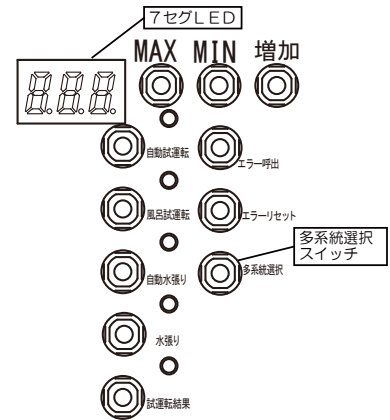
- ・付属の低温端末接続リード線（3 心）と各床暖房リモコンからの信号線を接続します。
下記の表を参照し、接続端子の番号とリード線の色は必ず合わせてください。

接続端子（熱動弁）NO.	1（青）	2（灰）	3（黄）	4（橙）
低温端末接続リード線色	赤、青、黒	赤、灰、黒	赤、黄、黒	赤、橙、黒

- ・電装基板の低温端末接続端子に、信号線と接続した低温端末接続リード線（3 心）のコネクタを差し込みます。
熱動弁の番号（信号線）と接続するリード線の色は上記表を参照し必ず合わせてください。
- ・低温端末接続リード線を整線し、電装基板カバーの内側に収めるようにしてください。
- ・低温端末接続リード線接続部がケース底面に接触しないようにする。

■1つの床暖房リモコンで2系統以上の床暖房を運転する場合

- まとめて複数の熱動弁を1つの床暖房リモコンで動かす場合、以下の手順に従ってください。
 - 1. 電装基板上の多系統選択スイッチを3秒間押し続けます。
7セグLEDの下位1桁目に「1」が点滅します。(パターン①)
 - 2. 多系統パターンは、下表を参考に選択します。
多系統選択スイッチを押し、設定したい番号を表示させ5秒間そのままの状態にすると、そのとき表示されている番号が選択され表示が消灯します。
 - 3. 設定後は前面板の点検扉の裏に貼り付けてある『熱動弁組合せ表』のマーク欄に設定したパターンをチェックします。
- 機器の制御に支障をきたす可能性があるため、熱動弁リード線の共締めは行わないでください。
- また、多系統設定の確認および設定後に電源を切る場合は、表示消灯後1分以上経過してから行ってください。(設定を記憶するのに1分必要です)
- 機器の電源が切れている状態から確認を行う場合、電源を投入してから1分以上待つて確認してください。
- (電源投入してから1分以内は、「1」の表示しかしません)

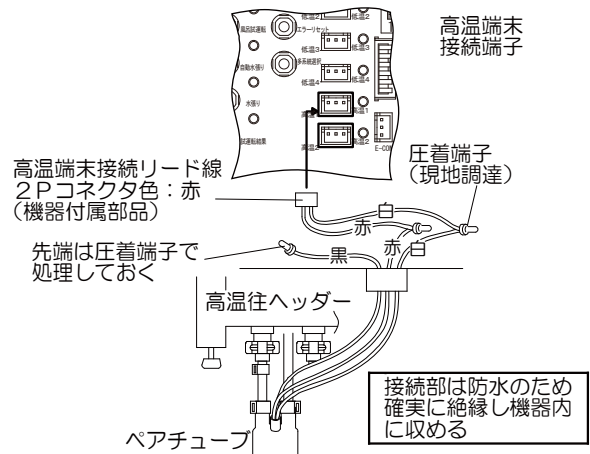


パターン	①				②				③				④				⑤			
端末接続端子(床暖房リモコン)	1	2	3	4	1	3	4		1		4		1		3		1			
熱動弁	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
連動部分の説明					リモコン1は1、2の熱動弁と連動				リモコン1は1、2、3の熱動弁と連動				リモコン1は1、2の熱動弁、リモコン3は3、4の熱動弁と連動				リモコン1は1、2、3、4の熱動弁と連動			

高温端末の接続

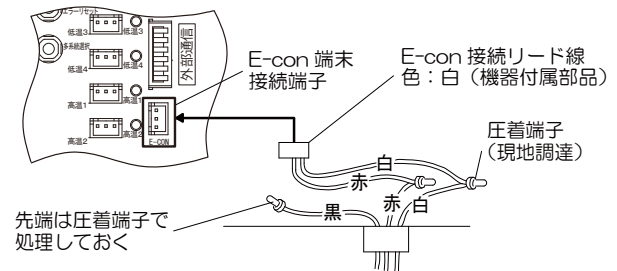
■インテリジェント通信対応端末の場合

- 付属の高温端末接続リード線（2心）と各端末からの信号線を接続します。接続する際は、各系統の信号線と対応させてください。
- 高温端末接続リード線（2心）は2本付属されていますが、高温暖房を3系統以上接続する場合は低温端末接続リード線（3心）を使用してください。その際、黒いリード線は使用しないため防水のため圧着端子で先端を処理してください。
- 電装基板の高温端末接続端子に、信号線と接続した高温端末接続リード線（2心）のコネクタを差し込みます。
- 接続リード線を整線し、電装基板カバーの内側に収めるようにしてください。
- 接続リード線接続部がケース底面に接触しないようにする。

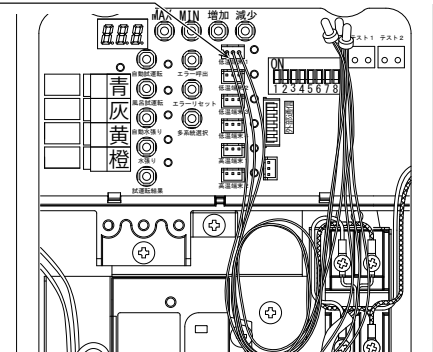


■E-con 端末の場合（80℃温水供給のみ）

- E-con 接続リード線は1種類です。
- 接続する放熱器の種類によって接続方法が異なりますので注意してください。
- 機器付属の E-con 接続リード線（2心）と各端末からの信号線を圧着端子（現地調達）で接続します。
- 端末からの信号線の黒線は使用しないため、ともに防水のため圧着端子で先端を処理してください。信号線を各々2～3本、共に圧着することで放熱器の増設も可能です。
- 電装基板の E-con 端末接続端子に、信号線と接続した E-con 接続リード線（2心）コネクタを差し込みます。
- E-con 接続リード線を整線し、電装基板カバーの内側に収めるようにしてください。
- E-con 接続リード線接続部がケース底面に接触しないようにする。



低温接続リード線接続部



※図は1系統での接続例です。接続が増えた場合も同様に整線し、電装基板カバーの内側に収めるようにする。
リード線接続部がケース底面に接触しないようにする。

■暖房信号線の整線

- リード線を図のように整線し、電装基板カバーの内側に収めるようにしてください。
 - リード線接続部がケース底面に接触しないようにする。
- ※暖房信号線を整線していないと、機器点検扉とフロントカバーの間に隙間ができます。雨水などが浸入し故障の原因になります。
- ※必要に応じてリード線の長さをカットするなどして、長さや取り回しを調整し接続、整線してください。

12. 設置工事後の確認

- ・設置工事が終了したら、もう一度、以下の項目を確認してください。
- ・付属部品、別売部品は、設置工事説明書、エネファーム対応機器は燃料電池発電ユニットの工事説明書で指定されているものを使用しているか確認してください。

熱源機およびその周辺について

- ・可燃物との距離および火災予防上の処置は十分ですか。
- ・熱源機の設置場所の条件は満足していますか。
- ・日常の使用および点検に支障をきたしませんか。
- ・点検・修理などの保守・管理上必要な空間はありますか。
- ・据置台および配管カバーのフロントカバーは確実に取り付けし、取付ねじはしっかり締め付けられていますか。
- ・その他、「4. 機器の設置工事」(1) 設置基準および (3) 設置場所のご注意を満足していますか。

ガス配管について

- ・ガス栓を開け、ガス配管に漏れはありませんか。
- ・その他、「4. 機器の設置工事」(2) 設置前のご注意[使用ガスの確認]および「9. ガス配管工事」の注意事項を満足していますか。

(給)排気について

- ・4. 機器の設置工事 (1) 設置基準および (3) 設置場所のご注意[給排気の注意]を満足していますか。

電気配線について

- ・電源コンセントの種類、位置は適正ですか。
- ・電源ケーブルの端子部の固定や、信号線の接続部の圧着は確実ですか。またコネクタはしっかり端子に差し込まれていますか。
- ・アース（接地）工事はされていますか。
- ・浴室リモコン・台所リモコン・増設リモコンおよび熱源機の電装ユニットへの配線は指定された工事がされていますか。
- ・配線接続部に短絡箇所はありませんか。
- ・その他、「4. 機器の設置工事」(2) 設置前のご注意[使用電源の確認]、「10. 電気配線工事」および「11. 暖房信号線接続工事」の注意事項を満足していますか。

給水・給湯配管について

- ・給水元栓を全開にして、給水栓・給湯栓を開き、水・湯が出てくることを確かめてから、給水・給湯配管に水漏れはありませんか。
- ・その他、「4. 機器の設置工事」(2) 設置前のご注意[給水配管の確認]および「5. 給水・給湯配管工事」の注意事項を満足していますか。

ふろ配管について

- ・ふろ試運転後、ふろ配管や循環アダプター部分に水漏れはありませんか。
- ・その他、「7. ふろ配管工事」の注意事項を満足していますか。

暖房配管について

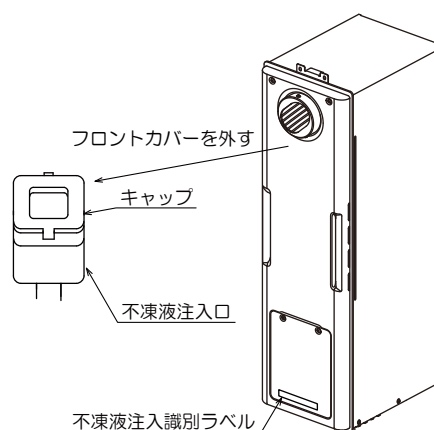
- ・試運転で水張りした後、暖房配管の特に接続部に水漏れはありませんか。
- ・その他、「8. 暖房配管工事」の注意事項を満足していますか。

不凍液を使用する場合

- ・不凍液を入れる場合は、指定品を使用し、不凍液の使用説明書に従い正しく使用してください。誤った使用方法は、防錆効果・凍結性能が低下するだけでなく、機器や暖房回路に悪影響を与えたり、故障の原因になります。
- ・不凍液を入れた場合は不凍液注入識別ラベル、[不凍液が入っています]のラベルを、機器フロントカバーに貼り付けてください。

不凍液注入方法について

1. フロントカバーを外します。(ねじ 4 本)
2. 不凍液注入口のキャップを外します。
3. 不凍液をこぼさないように注入します。
万一こぼしてしまった場合は完全にふき取ってください。
機器の故障の原因になります。
4. 暖房回路のエア抜きを行います。
5. 注入後、不凍液注入口のキャップは確実ににはめます。
外れていると機器の故障の原因になります。
6. フロントカバーを取り付け後、機器に同梱の不凍液注入識別ラベル
[不凍液が入っています]をフロントカバーに貼り付けます。



13. 試運転

- 取扱説明書の内容に従い試運転を行って、正常に作動することを確認の上、お客様に使用方法を説明して、お引き渡しください。
- 試運転終了後、点検扉を取り付けてください。
- リモコンで床暖房を設定している場合は、床暖房設定変更説明書の試運転方法を参照し、試運転を行ってください。

試運転の準備

- 機器本体の、給水や給湯などのすべての水抜き栓を閉めます。
 - 給水元栓を開き、シャワーなどを含むすべての給湯栓から水が出ることを確認し、すべての給湯栓を閉めます。
 - 暖房ヘッダー（高温往、戻り）のバルブを開けます。
 - 床暖房システムの自動試運転を行う場合は、床温センサー（別売部品）をセットします。
 - 浴槽が空になっていることを確認し、排水栓を閉めます。残水があると、次の自動運転時の水位が変化するなど正常に作動しません。
 - ガス栓を開き、機器および端末の電源プラグをコンセントに差し込む、または屋内分電盤のブレーカーを ON にします。リモコンと機器の通信に 30 ～ 60 秒ほどかかります。通信中はリモコンのボタンを押しても作動しません。しばらくお待ちください。（通信終了後、リモコンはチャイムが鳴り使用できることをお知らせします。）
- ※ リモコン通信中は試運転を開始しても正常に終了しません。通信終了後に試運転を行ってください。

試運転の注意

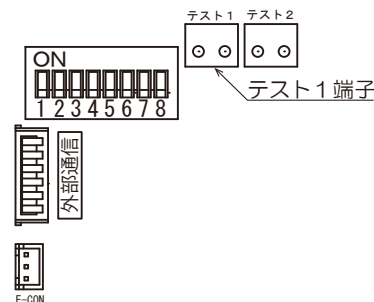
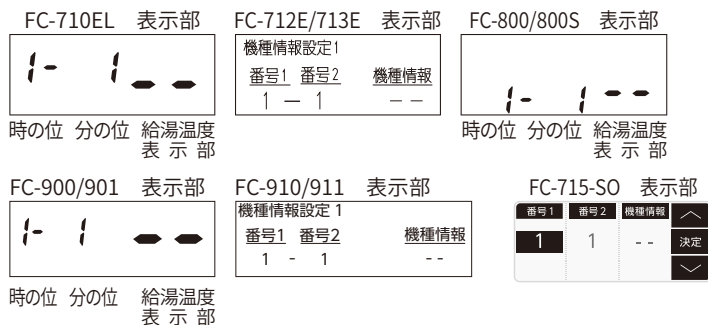
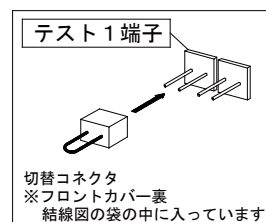
- 暖房試運転を行わずに給湯運転を行うと、機器は自動的に機器内部の補水・エア抜きを行います（約 90 秒）。この間、お湯が出ません（点火しません）。約 90 秒後に再出湯させて給湯運転を確認してください。
- 自動試運転中および自動水張り運転中に、端末の電源を抜かないでください。電源が入っていないと正常に作動しません。
- ガス配管中の空気を完全に抜いてからでないと点火しません。点火するまでガス配管中の空気抜きをしてください。

暖房の試運転

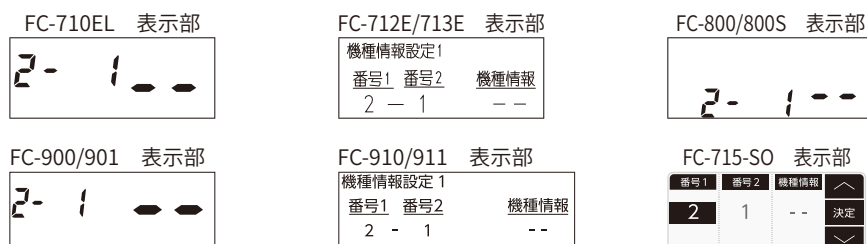
■暖房温水温度（低温往き温度）の設定変更方法

製品出荷時には「60℃」の設定になっています。
リモコンにより操作方法が異なりますので下記を参考に設置のリモコンにあった変更作業を行ってください。

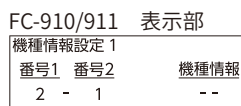
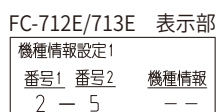
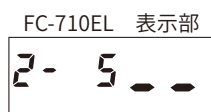
- フロント を外し、点検扉裏の袋にある切替コネクタを電装基板の「テスト 1」端子に差し込みます。
- 浴室リモコンの画面に「1 1 --」が表示されます。



- 【FC-710EL】「予約」ボタンを押し、時の位を「2」に合わせます。
【FC-712E、FC-713E】△▽ボタンを押し、番号 1 を「2」に合わせ、「決定」ボタンを押します。
【FC-800/FC-800S】「ふろ温度」ボタンを押し、時の位を「2」に合わせます。
【FC-900/FC-901】「予約」ボタンを押し、時の位を「2」に合わせます。
【FC-910/FC-911】△▽ボタンを押し、番号 1 を「2」に合わせ、「決定」ボタンを押します。
【FC-715-SO】△▽ボタンをタッチし、番号 1 を「2」に合わせ、「決定」ボタンをタッチします。



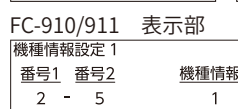
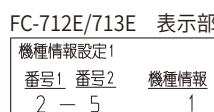
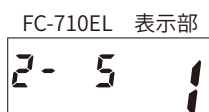
4. 【FC-710EL】△▽ボタンを押し、分の位を「5」に合わせ「音量」ボタンを押します。
 【FC-712E、FC-713E】△▽ボタンを押し、番号2を「5」に合わせ、「決定」ボタンを押します。
 【FC-800/FC-800S】△▽ボタンを押し、分の位を「5」に合わせ「給湯温度」ボタンを押します。
 【FC-900/FC-901】△▽ボタンを押し、分の位を「5」に合わせ「音量」ボタンを押します。
 【FC-910/FC-911】△▽ボタンを押し、番号2を「5」に合わせ、「決定」ボタンを押します。
 【FC-715-SO】△▽ボタンをタッチし、番号2を「5」に合わせ、「決定」ボタンをタッチします。



5. 【FC-710EL】給湯温度表示部を下表で変更したい温水温度（低温行き温度）番号に給湯温度の△▽ボタンで合わせ、「音量」ボタンを押します。
 【FC-712E、FC-713E】機種情報を下表で変更したい温水温度（低温行き温度）番号に給湯温度の△▽ボタンで合わせ、「決定」ボタンを押します。
 【FC-800/FC-800S】給湯温度表示部を下表で変更したい温水温度（低温行き温度）番号に給湯温度の△▽ボタンで合わせ、「給湯温度」ボタンを押します。
 【FC-900/FC-901】給湯温度表示部を下表で変更したい温水温度（低温行き温度）番号に給湯温度の△▽ボタンで合わせ、「音量」ボタンを押します。
 【FC-910/FC-911】機種情報を下表で変更したい温水温度（低温行き温度）番号に給湯温度の△▽ボタンで合わせ、「決定」ボタンを押します。
 【FC-715-SO】機種情報を下表で変更したい温水温度（低温行き温度）番号に△▽ボタンで合わせ、「決定」ボタンをタッチします。

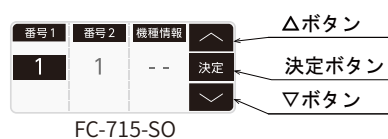
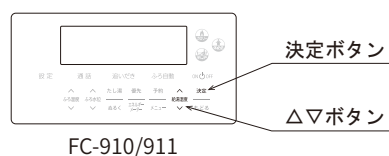
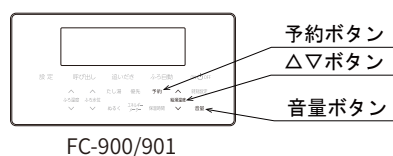
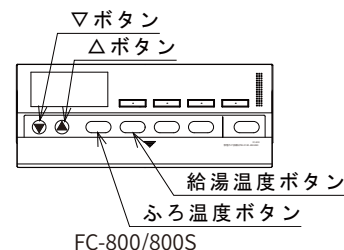
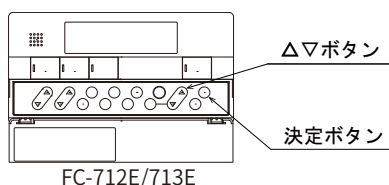
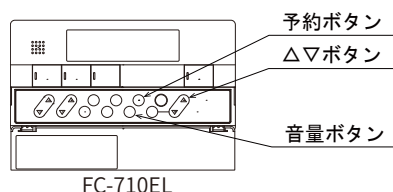
温水温度（低温行き温度）設定表

リモコン表示	機能	設定
2	0	60℃
5	1	50℃
	2	55℃
	3	65℃
	4	70℃



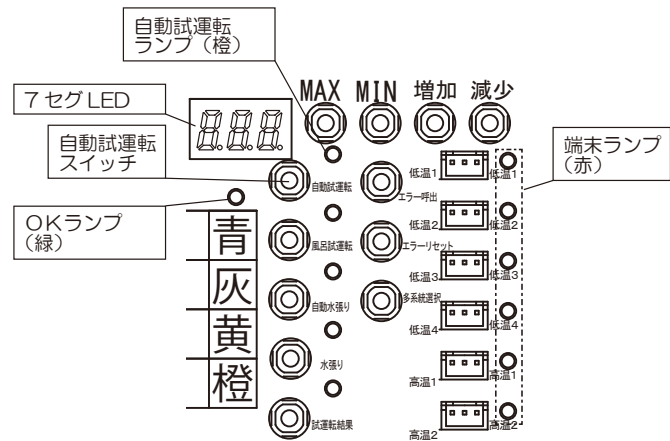
6. 正しくセットされると給湯温度表示部または機種情報の番号が点滅から点灯に変わり「セットされました」と音声で報知します。
 7. 電装基板上の「テスト1」端子の切替コネクタを抜くと設定が終了します。
 8. 設定変更後、切替コネクタは紛失しないように点検扉裏の袋に収納します。

各リモコンのボタン位置



■インテリジェント通信対応端末を使用する場合

- 1. 電装基板上の「自動試運転スイッチ」を押します。
 - 2. 自動試運転ランプ（橙）が点灯します。
 - 3. 信号線が接続されている接続端子に対応した端末ランプ（赤）がすべて点灯します。
 - 4. 接続端子 No. 1 の系統から、端末1つつ試運転を行っていきます。エアコンの場合は、同時に冷房試運転を行います。
 - 5. その端末の試運転が正常に終了すると端末ランプ（赤）が消灯し、次の端末の試運転に移ります。
 - 6. すべての端末ランプ（赤）が消灯すると、試運転終了です。
 - 7. 7セグLEDに「End」が表示します。
 - 8. 暖房およびふろ試運転が正常に終了した場合、OKランプ（緑）が点灯（常時点灯）します。
- 試運転未実施または異常がある場合はOKランプ（緑）は消灯したままです。
- ※信号線が接続されている接続端子に対応した端末ランプ（赤）が点滅した場合は、試運転エラーですので、対応する端末または機器の状態を確認し、その後、再度自動試運転を行ってください。その場合、前回正常に試運転を終了した端末の試運転は省略します。（作業手順 2. でいったんランプがすべて点灯しますが、5～10 秒後に正常終了した系統のランプは消灯し、試運転を行いません。）



コネクタを接続していても端末ランプが点灯しない場合

- 原因：①通信ラインの接続不良、断線 ②端末の電源コンセントの入れ忘れ。
- 対応：①「自動試運転スイッチ」を押し、自動試運転を一度止めた後、信号線などの通信ラインの接続不良、断線を確認して処置し、再度「自動試運転スイッチ」を押します。
- ②端末の電源コンセントを入れ、再度「自動試運転スイッチ」を押します。

コネクタを接続していても端末ランプが点滅する場合

- 原因：①通信ラインのショート ②床温センサー不良
- 対応：①「自動試運転スイッチ」を押し、自動試運転を一度止めた後、信号線などの通信ラインのショートを確認して処置し、再度「自動試運転スイッチ」を押します。
- ②「自動試運転スイッチ」を押し、自動試運転を一度止めた後、床温センサーの接続不良、断線を確認して処置をします。

自動試運転中の表示

(7セグ表示例)

自動試運転状態

表 示	内 容
A	端末の有無、試運転実行、省略を判定中
b	熱動弁（閉→開）中
c	水張り動作中
d	暖房試運転中
E	冷房試運転中
F	熱動弁（開→閉）中

試運転を行っている端末番号（右図参照）全端末は「ー」

接続端子NO.	表示
①	1
②	2
③	3
④	4
⑤	5
⑥	6

自動試運転は回転表示

接続端子 NO. に対応した表示をします。

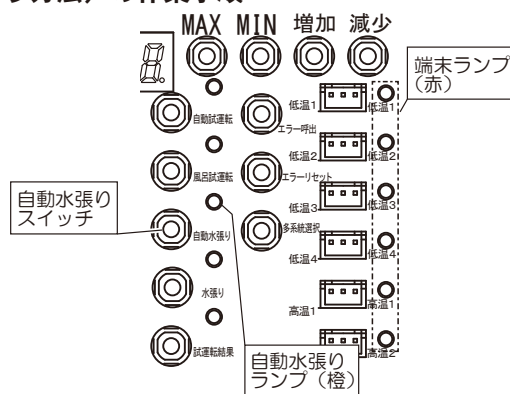
■自動水張り（インテリジェント通信により、水張りのみを行う方法）の作業手順

動作は自動試運転の作業手順 1～8 とほぼ同じですが、各端末の試運転は行いません。

1. 電装基板上の「自動水張りスイッチ」を押します。
2. 自動水張りランプ（橙）が点灯します。この場合、暖房燃焼をさせず、水張りのみ自動で行います。
3. 信号線が接続されている接続端子に対応した端末ランプ（赤）がすべて点灯します。
4. その端末の自動水張りが正常に終了すると端末ランプ（赤）が消灯し、次の端末の自動水張りに移ります。
5. すべての端末ランプが消灯すると、自動水張り終了です。

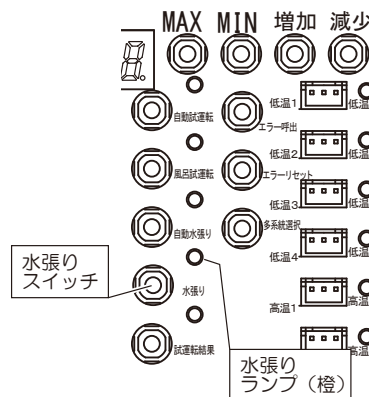
注) 端末の接続端子を抜きかえたときは、一度、機器の電源を切り、再度電源を入れなおしてから「自動水張りスイッチ」を押してください。

注) 自動水張り終了後、各端末の試運転を必ず行ってください。



■E-con 端末（インテリジェント通信に対応しない端末）を使用する場合の水張り試運転の作業手順

1. 電装基板上の「水張りスイッチ」を押します。
2. 水張りランプ（橙）が点灯します。
3. 端末を 1 系統ずつ運転状態にし、すべての端末の水張りを行います。注水、ポンプ運転を自動的に繰り返して回路のエア抜きを行います。
4. 水張り終了後、「水張りスイッチ」を OFF してから、各端末の試運転を行います。



■インテリジェント通信対応端末と E-con 端末を併用する場合の水張り試運転の作業手順

1. インテリジェント通信対応端末は、前記の自動試運転の作業手順に従ってください。この自動時は、E-con 端末の運転スイッチを「切」にし系統の回路を閉止してください。
2. E-con 端末は、自動試運転とは別に前記の各系統の水張り動作確認をしてください。

ふろの試運転

- 必ず浴槽が空の状態、排水栓が確実に閉めてあることを確認してから試運転を行ってください。残り湯があると、次回からの自動湯張り時の水位が変化するなど正常に作動しません。
- ふろ水位を変更する場合は、ふろ水位番号を 2 以上に設定してください。（通常浴槽設定 工場出荷時：6）

※フルオートタイプの場合…フルオートタイプの機器をご利用の場合、リモコンの種類に関係なく、リモコンの設定水位を 1 または 2 に設定した際、自動的に設定水位が 3 に切り替わり、ふろ試運転を行います。（リモコンの設定水位表示は 1 または 2 のままです）

注) 高機能タイプのリモコンをフルオートタイプと接続した場合は、試運転の水位が右表とは異なります。

浴槽からあふれないように注意してください。（P26 参照）

- ふろ試運転時にふろ水位の設定を変更された場合は、試運転終了後に工場出荷時の設定水位 6 に戻してください。

フルオートタイプ				オートタイプ			
洋バス設定 工場出荷時		和バス設定		通常浴槽設定 工場出荷時		大浴槽設定 工場出荷時	
お湯の高さ（目安）		番号		お湯の高さ（目安）		番号	
48cm	60cm	11		300L	500L	11	
45cm	57cm	10		260L	400L	10	
42cm	54cm	9		240L	300L	9	
40cm	51cm	8		220L	260L	8	
38cm	48cm	7		200L	240L	7	
36cm	45cm	6		180L	220L	6	
34cm	42cm	5		160L	200L	5	
32cm	39cm	4		140L	180L	4	
30cm	36cm	3		120L	160L	3	
28cm	33cm	2		100L	140L	2	
26cm	30cm	1		50L	50L	1	

※ふろ水位とは、浴槽底からのお湯の高さです。 ※ふろ水位とは、浴槽に入のお湯の水量です。

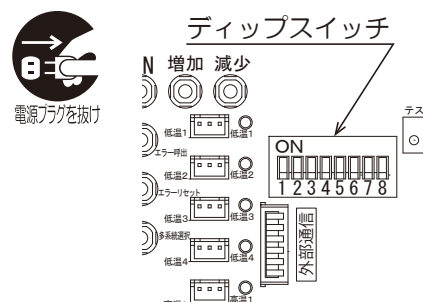
工場出荷時

工場出荷時

■浴槽種類の設定方法

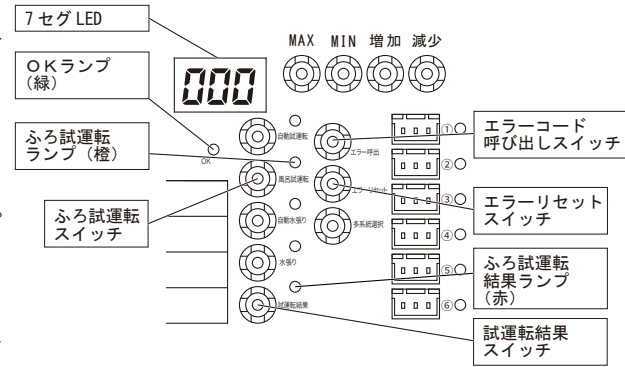
- フルオートタイプは出荷時「洋バス」設定になっていますので、洋バス以外の浴槽「和バス」にするには設定変更が必要です。
- オートタイプは出荷時「標準浴槽」設定になっていますので、標準浴槽以外の浴槽「大浴槽」にするには設定変更が必要です。
- 設定を変更する場合は、必ず電源プラグを抜くまたは屋内分電盤のブレーカーを OFF にしてから作業を行ってください。
- 電装基板上のディップスイッチの No.3 を切り替えることで「和バス」・「標準浴槽」 / 「洋バス」・「大浴槽」の設定変更ができます。その他のスイッチは変更しません。

ディップスイッチ NO.3	フルオートタイプ	オートタイプ
ON 	洋バス (工場出荷時：ON)	大浴槽 (OFF ⇒ ON に変更)
OFF 	和バス (ON ⇒ OFF に変更)	標準浴槽 (工場出荷時：OFF)



■ふろ自動試運転の作業手順

- 1. 電装基板上の「ふろ試運転スイッチ」を押します。
- 2. ふろ試運転ランプ（橙）、ふろ試運転結果ランプ（赤）が点灯します。
※ふろ試運転中は、配管などに振動や衝撃を与えないでください。水位不良の原因になります。
※ふろ試運転中は、運転が間欠（循環アダプターからお湯が出たり止まったり）しますが、異常ではありません。
- 3. 設定水位・湯温に到達し、正常に終了するとふろ試運転ランプ（橙）ふろ試運転結果ランプ（赤）が消灯し、試運転終了です。
- 4. 自動試運転（暖房側）も完了すると電装基板上的 OK ランプ（緑）が点灯します。
※ふろ試運転時にふろ水位の設定を変更した場合は、試運転終了後に工場出荷時の水位設定 6 に戻してください。
- ・ふろ試運転が正常でない場合、途中で停止し、ふろ試運転ランプ（橙）が消灯し、ふろ試運転結果ランプ（赤）が点滅し、リモコンにエラーコードを表示します。電装基板上的エラーコード呼び出しスイッチを押すとエラーコード表示部にエラーコードを表示します。ふろ試運転結果ランプは約 24 時間点滅した後消灯します。



注) 浴室リモコンで行うこともできます。その場合は浴室リモコンの運転ボタン（ON/OFF ボタン）を「入」（「ON」）にし、「ふろ自動」ボタンを 5 秒間長押ししてください。

（ご注意）

フルオートタイプの製品に体脂肪測定機能付浴室リモコン（高機能・エネファーム）をご使用の場合、ふろ試運転に時間がかかります。これは浴槽の形状を正確に確認しているため故障ではありません。
また、ふろ試運転時のふろ水位は、下表のように通常のふろ自動運転時より水位が高く設定されています。水位設定を変更する場合は、浴槽からあふれないように注意してください。

体脂肪率測定機能付浴室リモコン（高機能・エネファーム）ご使用時のふろ試運転時のふろ水位
（循環アダプターが浴槽の底面から 15cm に設置されている場合）

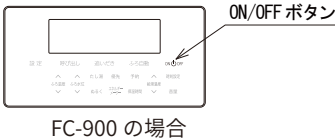
浴室リモコン設定水位	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ふろ試運転時の水位（cm）	40	40	40	42	44	46	48	50	52
（参考）ふろ自動運転時の水位（cm）	30	32	34	36	38	40	42	45	48

（工場出荷時は網掛けで示した 6 に設定してあります）

※標準タイプのリモコンをご使用の場合、ふろ試運転時のふろ水位は、ふろ自動運転時の水位と同じになります。

給湯の試運転

- 1. リモコンの ON/OFF ボタン（運転ボタン）を「ON」（「入」）にします。（運転ランプ・液晶が点灯します）
- 2. 給湯栓を開き、リモコンの給湯燃焼表示が点灯し、お湯が出ることを確認します。
（最初は、ガス配管の空気が抜けるまで給湯栓の開・閉操作を繰り返してください）
※給湯温度を 40℃以下に設定してお湯を使用すると、機器は燃焼せずに機器の余熱でお湯を出すことがあります。余熱が無くなると機器は燃焼を開始するため、燃焼ランプがついたり消えたりする場合があります。
- 3. リモコンの給湯温度設定を操作して、湯温が変わることを確認します。
確認後はリモコンの給湯温度を 40℃に設定しておいてください。



■自動試運転時のランプの表示（○点灯、×消灯、△点滅）

ランプの種類	運転状態とランプについて
OK ランプ（緑）	自動試運転・ふろ試運転終了時、すべて正常完了であれば点灯（○） 1 つでも未終了のものがあれば消灯（×）
自動試運転ランプ（橙）	自動試運転運転時は点灯（○）、終了後消灯（×） （すべての端末が未接続の場合でもすぐには消灯せず、通信を 1 回行ってから消灯（×）
試運転結果ランプ 低温端末①～④（赤） 高温端末⑤～⑥（赤）	試運転スイッチが押されると接続されている端末すべてが点灯（○） 試運転正常終了時は消灯（×） 異常の場合は点滅（△） 試運転終了後 24 時間経過後消灯（×） 試運転確認スイッチを押されたとき 正常終了している端末は点灯（○）、未接続、未完了、異常の端末は消灯（×）
ふろ試運転ランプ（橙）	ふろ試運転スイッチを押すと点灯（○）し、終了すれば消灯（×）
ふろ試運転結果表示 ランプ（赤）	ふろ試運転スイッチを押すと点灯（○）し、正常終了すれば消灯（×） 異常であれば運転 OFF（異常解除）または 24 時間経つまでは点滅（△） 試運転結果表示のときは、 正常終了していれば点灯（○）、未終了または異常であれば点滅（△）
自動水張りランプ（橙）	自動水張りスイッチを押すと点灯（○）し、終了すると消灯（×）
水張りランプ（橙）	水張りスイッチを押すと点灯（○）し、終了すると消灯（×）

自動試運転結果のクリア方法

- すべての端末の試運転を最初からやり直す場合に以下の方法で試運転結果をクリアをすることができます。

- 電装基板上の試運転結果スイッチとエラーリセットスイッチを同時に3秒間長押しします。
- 7セグLEDに「SCL」と表示されると試運転結果がクリアされます。

7セグLEDの表示

SCL

■暖房配管のエアー抜き運転タイマー設定方法

- 設定を変更する場合は、必ず電源プラグを抜く、または屋内分電盤のブレーカーをOFFにしてから作業を行ってください。工場出荷時には、「720時間に1回」の設定となっています。
- 電装基板上のディップスイッチ No.1、No.2 の組み合わせで暖房配管のエアー抜き運転時間を切り替えることができます。
- 設定についてはガス事業者の施工指針に従ってください。



エアー抜き運転	ディップスイッチ	
エアー抜き動作なし	1…ON 2…OFF	
720 時間に 1 回 (工場出荷時)	1…OFF 2…OFF	
360 時間に 1 回	1…OFF 2…ON	
72 時間に 1 回	1…ON 2…ON	

エラーコードについて

■自動試運転時の端末機器側のエラー表示について

1. 床暖房リモコン

エラー番号	エラー内容	発生原因
3 2 4	床温異常	・試運転用床温センサーの故障（オープン、ショート） ・試運転用床温センサーの取り付けなし
0 3 4	誤配管判定	・試運転OFFモード時に床温が3℃（または5℃）上昇する
9 7 0	試運転50分経過	・試運転ONから49分以内に試運転OK確定しない ・誤配管等がないか確認し、再度試運転を行う

2. エアコン

エラー番号	エラー内容	発生原因
9 7 0	暖房試運転エラー	・試運転ONから10分以内に試運転OK確定しない ・熱交換器の温度が冷風防止解除温度に達しない ・誤配管等がないか確認し、再度試運転を行う
9 8 0	冷房試運転エラー	・試運転ONから10分以内に試運転OK確定しない ・室温と熱交換器の温度差が5℃以上ない ・誤配管等がないか確認し、再度試運転を行う

3. 浴室暖房乾燥機

エラー番号	エラー内容	発生原因
9 7 0	試運転エラー	・試運転ONから10分以内に試運転OK確定しない ・吸い込み温度が7℃上昇しない ・誤配管等がないか確認し、再度試運転を行う

4. 燃料電池発電ユニット

エラー番号	エラー内容	対処方法
7 6 9	通信エラー	・熱源機と燃料電池発電ユニットが通信線で接続されていることを確認し、再度試運転を行う

5. 即湯ユニット

エラー番号	エラー内容	対処方法
7 6 8	通信エラー	・熱源機と即湯ユニットが通信線で接続されていることを確認し、再度試運転を行う

■ふろ試運転時のエラー表示について

エラー番号	エラー内容	対処方法
0 0 2	ガス供給なし 浴槽残り湯あり	・ガス栓が開いているか確認する ・浴槽に残り湯がないか確認する
0 3 2	注湯時間異常	・浴槽の栓が抜けていないか確認する
1 1 1	注湯点火不良	・ガス栓が開いているか、配管内に空気が溜まっていないか確認する
2 5 2	基準水位不検出 設定水位不検出	・浴槽の栓が抜けていないか確認する

- 上記以外の熱源機のエラーおよび詳細については点検扉裏の袋にある故障診断シートにてご確認ください。

故障履歴のクリア方法

- すべての試運転終了後に、電装基板上のエラーリセットスイッチを5秒以上押してください。7セグLEDに「ECL」と表示され、試運転時の故障履歴が消去されます。

※7セグLEDにエラー番号表示中は故障履歴を消去することができませんので、必ず表示が消えた状態で行ってください。（故障履歴を消去しないと、故障発生時に通常使用中の故障表示と区別がつかなくなりますので、必ず消去してください）

ECL

7セグLEDの表示

14. 試運転後の水抜き

注意

- ・試運転後、お客様が使用されるまでに冬期をはさむ場合は、凍結して機器が破損するおそれがあるので、機器内の水抜きを行う。(不凍液を使用した場合は暖房配管の水抜きは必要ありません。)
- ・特に集合住宅の PS 設置などの水抜きを行う場合は、床面や PS 内部に水をこぼさないよう、容器などで排水を受ける。

現場を離れる前に

- ・試運転終了後、長期間使用しないときは、機器本体および周囲の点検と機器内の水抜きを行ってください。
- 1. 水フィルターを取り出し、フィルターを清掃します。
- 2. 機器の周辺に可燃物がないかもう一度確認します。

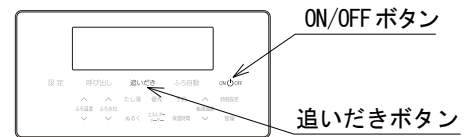


試運転後の水抜きについて

機器本体の水抜きを行う方法は浴室リモコンで行う方法と機器本体で行う方法があります。

■浴室リモコンで行う水抜きの作業手順

1. ガス栓を閉めます。
2. 給水元栓を閉めます。
3. 浴槽の水をすべて排水します。
4. 浴室リモコンの ON/OFF ボタン (運転ボタン) を「ON」(「入」) にします。追いだきボタンを 5 秒間押し続けます。受付音「ピッピッ」が鳴り追いだきランプが点滅します。
5. 約 2 分間そのままお待ちください。
6. すべての給湯栓を全開にします。

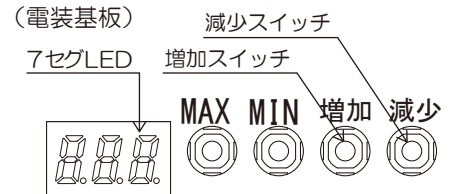


FC-900 の場合

■機器本体で行う水抜き作業手順 (浴室リモコンが接続されていない場合は操作できません)

機器本体の電源プラグを抜く、または屋内分電盤のブレーカーを OFF にし、2～3 秒後に再度電源プラグを差し込む、または屋内分電盤のブレーカーを ON にします。

1. ガス栓を閉めます。
2. 給水元栓を閉めます。
3. 浴槽の水をすべて排水します。
4. 約 1 分間待ち、機器本体の電装基板の「増加」「減少」スイッチを長押しします。受け付けられると、7 セグ表示の左 7 セグ LED が回転表示します。
5. 約 2 分間そのままお待ちください。
6. すべての給湯栓を全開にします。



< 給湯側およびふろ側の水抜き >

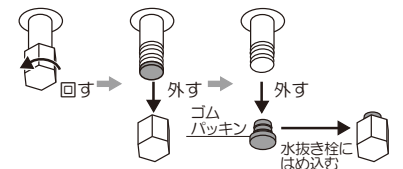
7. 水抜き栓 (1)、(2)、(3) を外します。

< 暖房側の水抜き >

8. 不凍液注入の確認
不凍液が入っていない場合…水抜き栓 (4) を開けます。
不凍液が入っている場合…9. へ進みます。
9. 水抜き栓から排水されたことを確認し、水抜き栓を閉めます。
10. 最後に電源プラグを抜く、または屋内分電盤のブレーカーを OFF にします。
(注意)

浴槽の水を排水後は、浴槽へ水を流し込まないでください。

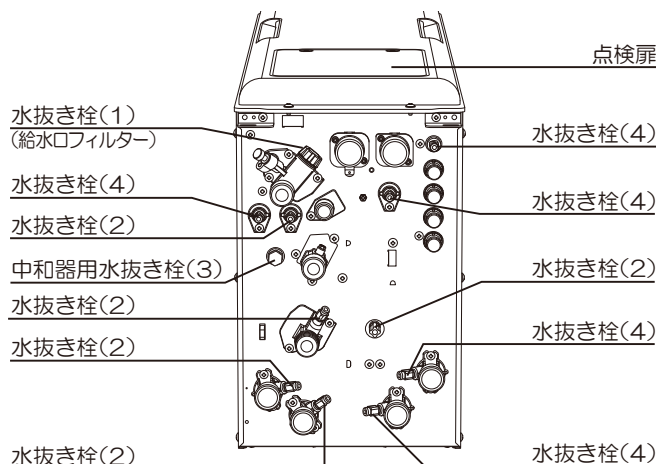
暖房側の水抜きを行うときは、必要に応じて端末の水抜きを行ってください。



水抜き栓 (3) の外し方

水抜き栓 (3) は中のゴムパッキンを外して、水抜き栓にはめ込んでください。

水抜き栓の位置



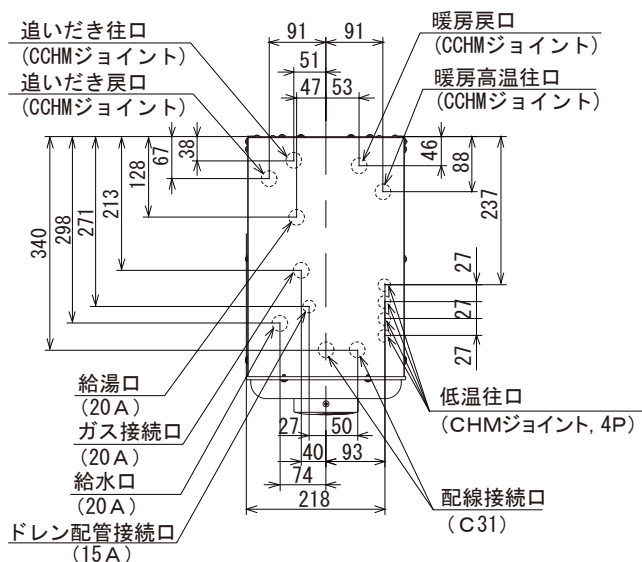
15. お客様への説明

- 取扱説明書に従って使用方法を説明してください。特に「必ずお守りください」「使用方法」についてよく説明してください。
- 保証書に必要事項を記入の上、お客様に渡して、取扱説明書に従って「アフターサービス」について説明してください。

16. 外形寸法図

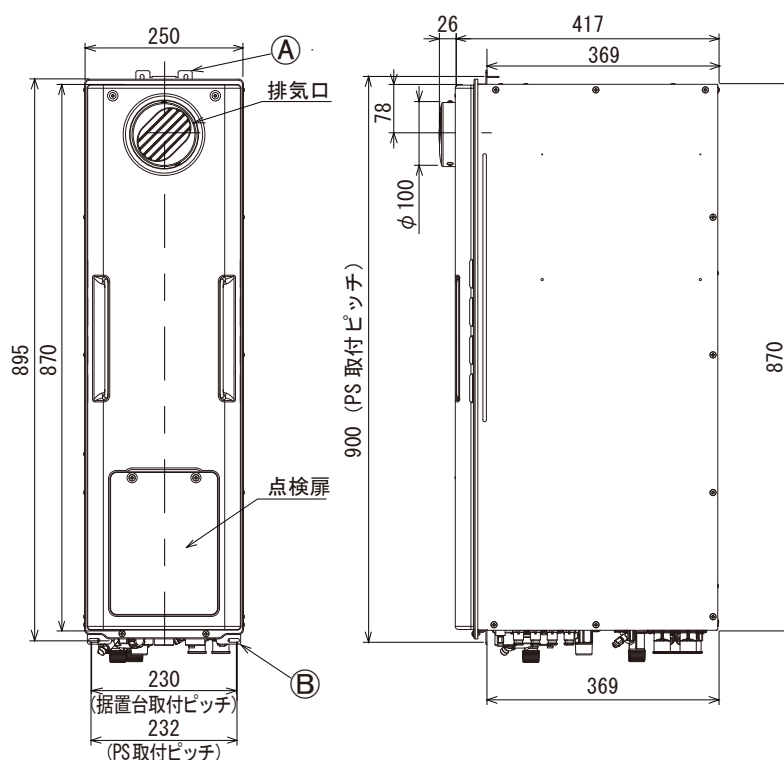
1. XT4219LRSAW4C / XT4219LRSSW4C

単位 (mm)

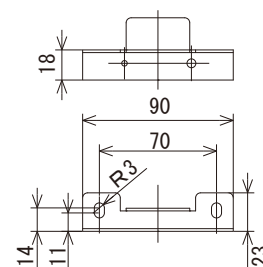


■各配管口径と底板よりの継手高さ

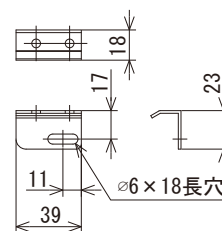
	配管口径	継手高さ
ガス	20A (R3/4)	40
水	20A (R3/4)	51
湯	20A (R3/4)	51
追いだし往・戻	CCHM ジョイント	38
暖房低温往	CHM ジョイント	25
暖房高温往	CCHM ジョイント	38
暖房戻	CCHM ジョイント	38
ドレン	15A (R1/2)	25
電線管	C31	25



①部詳細



②部詳細



製造者：パーパス株式会社

〒417-8505 静岡県富士市西柏原新田 2 0 1